

2009年度

# 防災教育チャレンジプラン実践校 配布資料

H22.2.13



## 目次

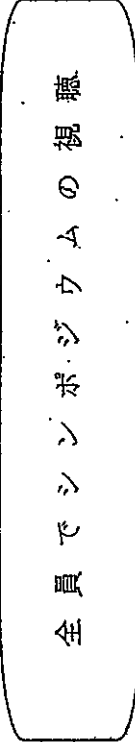
- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| ○ 「地域防災訓練」 当日の実施計画      | P 1     |
| ○ 新聞掲載記事一覧              | P 2～3   |
| ○ 宮城県教育委員会生涯学習課HPでの紹介記事 | P 4～6   |
| ○ 「地域防災訓練」 アンケート結果      | P 7～21  |
| ○ 「       」 生徒用ワークシート   | P 22～31 |
| ○ 地域防災スローガン             | P 32    |
| ○ 模擬議会議案書               | P 33～36 |
| ○ 地域防災マップ               | P 37～40 |
| ○ 避難所設営マニュアル            | P 41～46 |
| 体育館配置図、表示関係             |         |
| 健康チェックシート               |         |
| 物品管理表                   |         |

※丸森東中学校の防災教育に基づく対策・運営等マニュアル

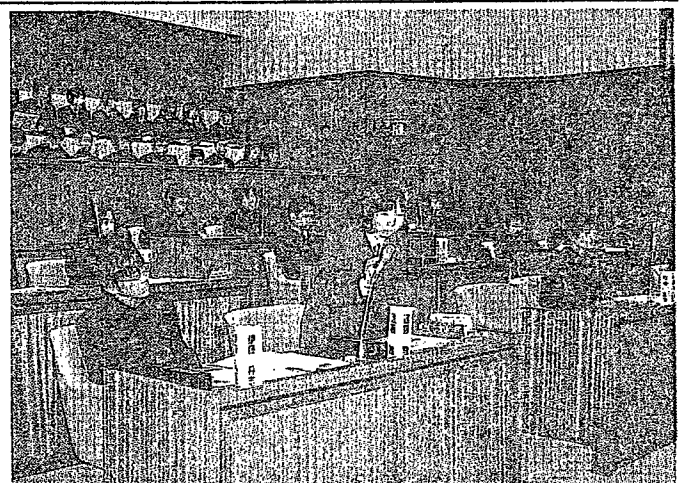
宮城県丸森町立丸森東中学校

平成21年度「丸東・改援隊 地域防災訓練」当日の実施計画

時刻	実施概要	改援隊の各部の訓練活動・概要				地域伝承部 応急・救護
		生徒・住民 生徒	地域住民 [希望者]	災害対策本部 訓練指示・把握	加工商品開発部 炊き出し調理	
9:00	隊の集合・打合せ					
9:40	地震発生(想定) 生徒・校庭避難訓練	校庭へ避難	訓練避難の開始	図書室・校長室	図書室・校長室	体育館
10:00	住民の訓練開始	本日の訓練説明 役割分担の確認	各ケース1>公民館・集合 後、中学校へ移動	各部の活動状況の把握	2つの公民館で参加者の招集・確認	体育マツト、量、シート等に
05	災害対策本部・設置 [本部:図書室]		各ケース2>個々に中学校へ移動	避難所の開設・運営状況の把握	参加者を引率して中学校へ移動	よる避難所を準備
10	各活動の開始	①避難所・準備 [体育館]		参加希望者の把握	生徒と一緒に炊き出し調理を開始	②トイレ等への案内
30	被災情報の収集 ・避難所開設・準備 ・炊き出し準備等	②炊き出し準備 [家庭科室]		当日不参加者の把握・確認		③避難所でのビデオ放映
		③地域巡回 (各地区代表生徒)		不参加者の把握		ケガ、体調不良者の介護活動
11:00	避難所・開設 (避難者の名簿記載) <体育館:ビデオ放映>	避難所の受付・避難者の接待	避難所・体験 (&中学生との交流) 懇談	巡回の出席状況を確認	生徒、職員、参加者の人数確認	
12:00	炊き出し・試食・開始	配膳等の世話 後片付け	炊き出し・試食	全員で、避難所(体育館)にて、炊き出しの提供・試食、その後、訓練参加者との懇談		
13:00	懇談会・アンケート (本日の感想等・調査)	<同左> 意見・感想等発表	<同左> 感想等をお聞きする	アンケート調査		
13:30	地域防災シンポジウム	* 全生徒が参加	* 参加は自由 (用事がある人は帰宅)	シウムのチラシを各家に配布		
14:00	①改援隊の説明					
15:00	②講演(大学教官)					
15:30	③パネル(隊長、大学教官、館長、生徒等)					
16:30	閉会		解散			
17:00	後片付け 下校・解散	後片付け 帰りの学活・下校				



☆ 避難所(体育館)で、11:00からビデオ放映「震度7・阪神大震災の教訓(ドキュメント神戸72時間の記録)」。校庭等にて、自衛隊による防災器材の展示・説明。



町の将来について活発な議論を交わした模擬議会

# より良い町へ「議案」

## 丸森の中学生 模擬議会で提言

丸森町丸森東中（生徒49人）の3年生19人が9日、町議会議場で模擬議を開き、「未来の丸森町」をテーマに議論した。総合学習の一環で行われた。「防災マップを作った防災意識を高めよう」「看板を設置して町の魅力をPRする」といった提言を四つの「議案」としてまとめ、代表の生徒が画像を使って提案理由を説明した。議席に座った生徒も質問し、傍聴席の1、2年生が審議を見守った。八巻宏征教育長が「着眼点が素晴らしい。具体的にテーマを絞り込めば理解が深まる」と講評した。住宅の耐震診断について提言した加藤史崇君（15）は「壇上では緊張したが、主張をうまく伝えられた」と話した。

**【掲載記事一覧】**  
 右（12月12日・河北新報）  
 下（12月17日・毎日新聞）

# 丸森東中 地域訓練を担う



丸森東中は5月、49人の生徒と学校支援組織「丸東・改援隊」が主体となって地域防災訓練を実施した。平日の日中に大規模な地震が発生したことを想定し、避難所の開



設や炊き出しで住民と学校が連携。少子・高齢化が進む地域では、中学生が防災の担い手となることを立証した。高橋教義校長は、訓練を機に、地域のお年寄りが学校に顔を出すようになったことを挙げ、「生徒たちも『地域が活性化した』と自信を持ち始めている。この受賞がさらなる自信につながる」と話した。

5月の地域防災訓練で、車椅子を持ち上げて住民を避難所へ誘導する生徒ら（丸森東中提供）

# 学校と住民ら一体

## 丸森東中で防災訓練

大地震発生などの災害時、地域の避難所となる丸森町立丸森東中学校で22日、学校と生徒、地区住民らが一体となった地域防災訓練が行われた。訓練には全校生徒49人をはじめ、改援隊員、婦人防火クラブ員、住民ら合わせて約1500人が参加。生徒らは災害時に避難所になる体育館で、改援隊員の手



婦らと一緒に炊き出し訓練や写真や住民の避難誘導訓練、応急手当準備などさまざまな訓練に取り組んだ。校庭では陸上自衛隊による避難テントや給水車の展示や、野外炊事の説明も行われた。【豊田英夫】

# 慌てず冷静に避難

## 生徒と住民が防災訓練



# 備える

炊き出し訓練で、豚汁を作った住民ら（生徒ら）

大規模地震を想定した地域防災訓練が22日、丸森町丸森東中（生徒49人）で行われ、生徒と地域住民ら約百八十人が日ごろの備えの大切さを学んだ。国が後援する防災教育チャレンジプランの採択事業で、同中の教育活動を支援する住民組織「丸東・改援隊」（斎藤秀幸隊長）などが主催した。平日の日中に地震が発生し、高齢者と子どもが被災したと想定。丸森町

小斎、金山の両地区住民が避難所に指定された同日、丸森町立丸森東中（生徒49人）で、生徒と改援隊メンバーが中心となって、おにぎりや豚汁の炊き出しを行ったほか、車いす利用者の介助や物資搬入に当たり、お年寄りの「避難所生活」を支えた。防災用品を紹介した一年の目黒滝汰君（三）は「訓練を通じて冷静に行動できるようにした」と話した。訓練後にはシンポジウムも開かれた。

# 学校支援の「改援隊」

## 生徒と防災訓練実施

丸森東中に発足した丸森町立丸森東中学校に今年度、PTAを中心に地域の人も交えた「丸東・改援隊」が発足し、22日、防災訓練があった。生徒を含め約180人が参加。生徒らとともに体育館に「避難」してきた地域のお年寄りの世話をし



毛布などの緊急物資を輸送車から避難所の体育館に運ぶ生徒ら（丸森町立丸森東中学校）

改援隊は学校だけでは足りない教育活動を実践するのが目的で、教育改革の「改」と支援の「援」から名付けた。コメ・野菜づくりや伝統芸能の伝承活動などについて生徒たちと一緒に取り組み、郷土愛や勤労意識、異年齢の人たちともコミュニケーションできる力を育てたいという。炊き出しなどもした生徒たちについて、改援隊の斎藤秀幸隊長は「初めてのことで、手探り状態だが、一生懸命動いてくれた」と話した。

# 【掲載記事一覧】

- 上（5月23日・朝日新聞）
- 右（5月23日・毎日新聞）
- 下（5月28日・河北新報）

※宮城県教育委員会ホームページにも生涯学習課で紹介されています。

## 協働教育実践現場訪問

### 地域防災訓練の取組

# 丸森町立丸森東中学校

#### 1 はじめに

昨年発生した岩手・宮城内陸地震からもうすぐ1年が過ぎようとしています。今後さらに高い確率で「宮城県沖地震」が発生すると言われている現在、地震をはじめとした災害に対する備えは県民にとっても大きな関心事になっているように思われます。もし、激甚災害が発生した場合、学校は地域の中心として人々の避難場所の役目、家族や知人の安否、被害状況等の情報交換場所などとして、果たすべき役割には非常に大きなものがあります。

そんな中、丸森町立丸森東中学校(高橋教義校長)では、教育活動の一環として丸森東中学校の学校支援組織である「丸東・改援隊」と地元公民館や社会福祉協議会と協働し、さらに、陸上自衛隊船岡駐屯地の協力もいただきながら、丸森東中生と避難所である丸森東中学校が地域防災に貢献することを目的とした「地域防災訓練」を実施しました。

2 実施日 平成21年5月22日(金)

3 会場 丸森東中学校・体育館

#### 4 取組の概要

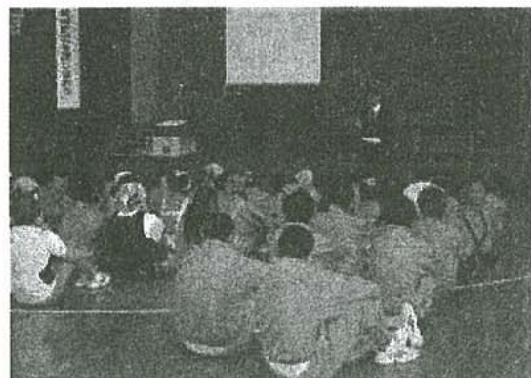
午前10時を過ぎると、町指定の避難所である丸森東中学校体育館へたくさんの方々が集まってきました。地域の方々それぞれ徒歩や車等で誘導係を務める丸森東中生とともに、体育館に集合しました。そして、実際に体育館で避難所の体験をしたり、炊き出しの試食をするなど実際の避難を想定した「地域防災訓練」に参加しました。

体育館内には、非常食や様々な災害グッズも展示され、災害を身近なものとしてとらえることができました。トラック協会からは救援物資を積んだトラックが到着し、毛布や水といった救援物資が中学生の手渡しでトラックからおろされました。また、校庭には自衛隊の災害救助車両や避難用テントなども展示され、学校と地域が一体となった防災訓練が展開されました。

訓練には防火婦人クラブのみなさんや町の防災ボランティアなど関係機関の方々もたくさん参加しました。地元の小学生も訓練に参加し、異校種間の連携や交流も図られました。

午後からは、「地域防災シンポジウム」が開催され、兵庫教育大学名誉教授の徳山明先生の講演やパネルディスカッションを通して地域防災の意義や必要性について学びました。

#### 【取組の様子】



地域防災訓練の開始にあたり、高橋校長先生から学習のねらいなどについてのお話がありました。



地域の方々も訓練に参加されました。午前10時に訓練避難がはじまりました。



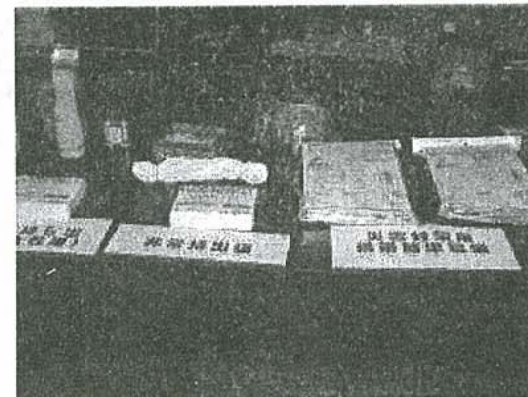
避難所の体育館では、中学生がそのお世話にあたりました。



地域の方々に混じって中学校区の小学校も訓練に参加しました。



社会福祉協議会からは非常食の提供がありました。



災害時に必要となる様々な物品やグッズについても知ることができました。



校庭には自衛隊の災害救助車両や避難用テントなどが展示されました。



家庭科室では、改援隊の方々や中学生が中心となって炊き出しをしました。



緊急物資を積んだトラックから手渡し作業で荷物をおろしました。



炊き出しで作った食事の試食もありました。

5 丸森東中学校を訪問して

丸森東中学校では高橋校長をリーダーとして、丸森東中学校の教育活動を改革・支援する組織として、丸森東中学校区等の地域住民や保護者の方々をそのメンバーとする「丸東・改援隊」という学校支援組織を本年度設立しました。その組織を活用して農業体験、収穫物の加工と商品開発、販売、地域文化の伝承、地域防災教育といった教育活動に取り組んでいます。

同じように、地域が学校を支援し、地域住民の積極的な学校支援活動を推進していくために平成20年度から文部科学省の委託事業として始まった「学校支援地域本部事業」(宮城県では平成20年度8市町12本部が立ち上がっています。)があります。「学校支援地域本部事業」はどちらかというと、地域の教育力を学校のために活用する学校支援・応援組織として生涯学習担当課を中心とする行政側の主導で設立されるケースがほとんどです。しかし、丸森東中学校では学校が中心となり、PTAだけではなく、地域や地域住民をも巻き込んだ学校支援組織を設立しました。その背景には、「地域と連携したより開かれた学校づくり」という高橋校長の強い学校経営の方針があったようです。

きちんとした学校支援組織があるということは、質の高い教育を提供するための前提となり、継続した教育活動が可能となります。今回、丸森東中学校を訪問し、児童生徒や保護者、教職員はやがて入れ替わったとしても、常に特色ある教育活動が展開されていくものと感じました。

平成21年度 地域防災訓練のアンケート調査の集計・分析

— 調査データの相関分析と因子分析による成果と課題等の検証 —

1、アンケート調査の実施日 平成21年5月22日(金): 地域防災訓練の実施日

2、調査対象者

(1) 本校生徒 49人 [1年生14人、2年生16人、3年生19人]

(2) 地域住民等の参加者

当日の参加者数76人中、アンケートの協力者数43人

(午前の訓練にのみ参加した方、午後の講演会等に不参加者もいたため)

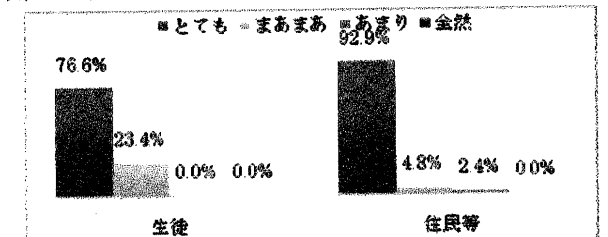
アンケート協力者(人)

30代	40代	50代	60代	70代	80代	未記入	計
1	1	11	22	7	0	1	43

3、アンケート集計結果

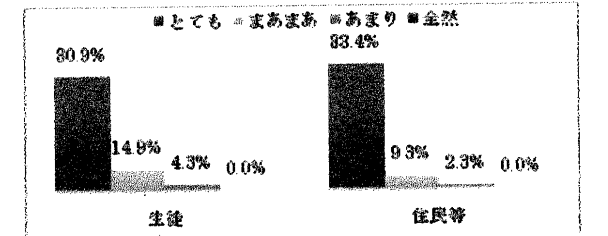
Q1、本日のような訓練に限らず、一般的に地域防災訓練を行うことは、必要と考えますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	36	11	0	0
住民等	39	2	1	0



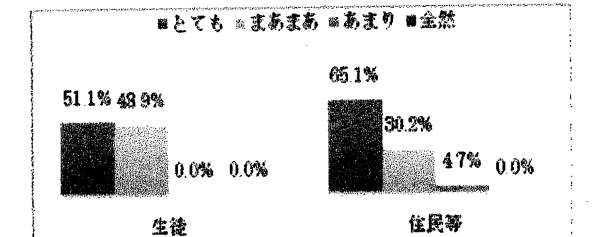
Q2、地域だけで行う防災訓練とくらべて、本日のように学校と公民館、そして地域住民が一緒になって防災訓練を行うことは必要と考えますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	38	7	2	0
住民等	38	4	1	0



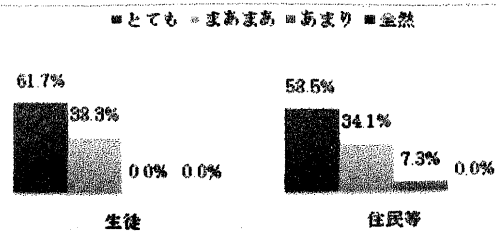
Q3、中学生が地域防災訓練で係に分かれて活動しましたが、本日の地域防災訓練でどの程度、中学生は貢献ができたと思いますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	24	23	0	0
住民等	28	13	2	0



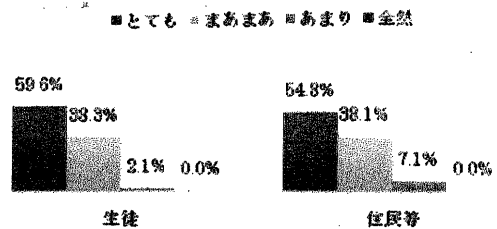
Q4、本日の地域防災訓練に参加・体験して、どの程度、良かった・ためになったと感じられましたか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	29	18	0	0
住民等	24	14	3	0



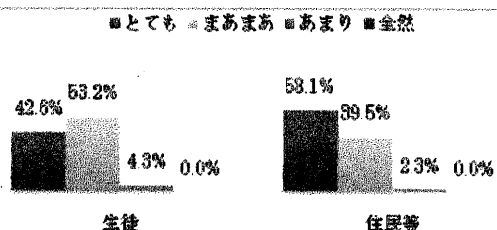
Q5、本日に避難所体験をされ、もし、実際に地震などで避難するときになったら、本日の避難所体験は、どの程度、役に立つと感じられましたか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	28	18	1	0
住民等	23	16	3	0



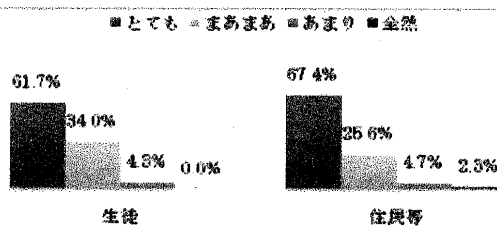
Q6、本日のような避難や避難所体験が必要となる、大きな地震がどの程度おこると感じられていますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	20	25	2	0
住民等	25	17	1	0



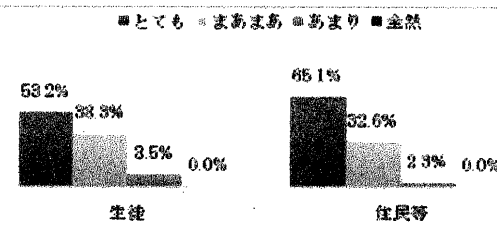
Q7、実際に大きな地震が起きた場合、本日のような地域防災訓練は、どの程度に役立つと思いますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	29	16	2	0
住民等	29	11	2	1



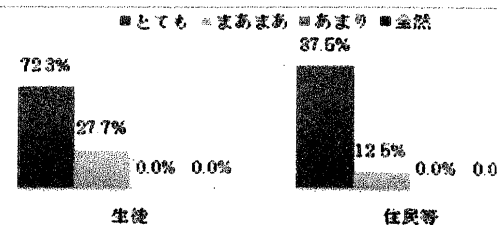
Q8、地域防災訓練は、毎年、実施する必要があると考えますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	25	18	4	0
住民等	28	14	1	0



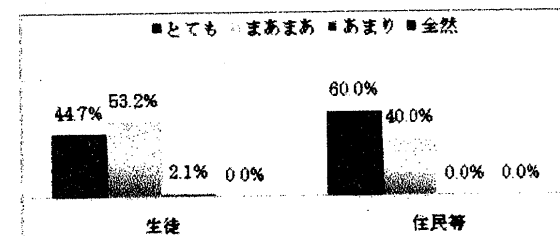
Q9、中学生や学校が地域防災訓練に参加や協力することは必要と感じていますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	34	13	0	0
住民等	35	5	0	0



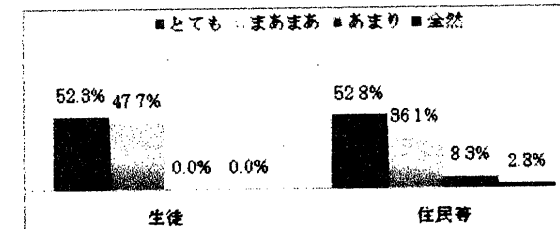
Q10、炊き出しについて、どの程度、満足しましたか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	21	25	1	0
住民等	24	16	0	0



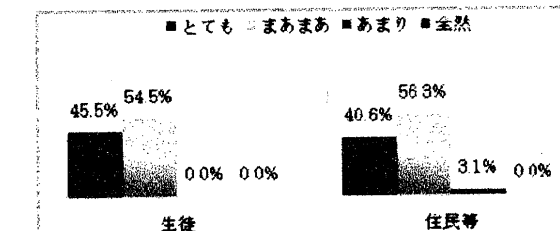
Q11、講演については、どの程度、お役に立つ内容でしたか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	23	21	0	0
住民等	19	13	3	1



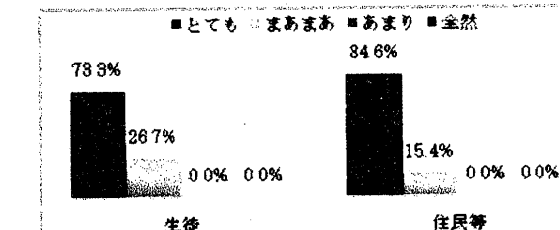
Q12、パネルディスカッションについては、どの程度、満足しましたか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	20	24	0	0
住民等	13	18	1	0



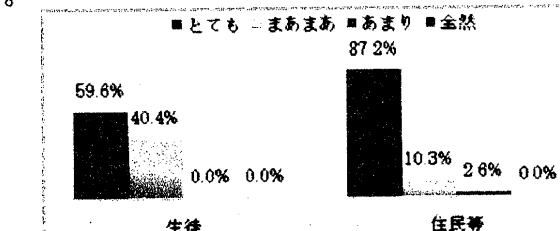
Q13、本日の防災訓練のように、地域や公民館と、学校が一緒になって取り組む活動が、増えることをどう思いますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	33	12	0	0
住民等	33	6	0	0



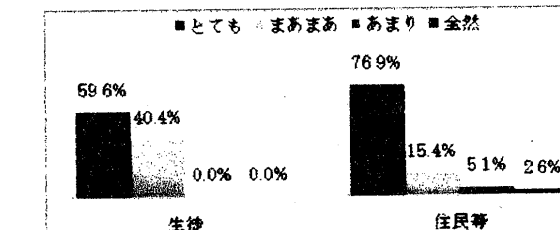
Q14、地域や公民館、そして学校が一緒になって、様々な活動や取組を実施することは、地域の活性化にどの程度つながると感じていますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	28	19	0	0
住民等	34	4	1	0



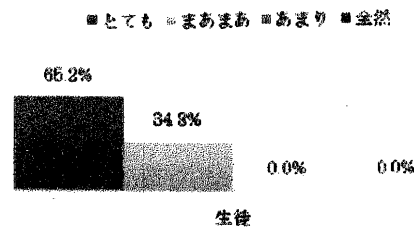
Q15、本日のような行事は、地域の皆さんと中学生の関わりがどの程度、深まると感じますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	28	19	0	0
住民等	30	6	2	1



Q16、これまで行ってきた防災教育は、大切だと感じますか。

	とても	まあまあ	あまり	全然
生徒	30	16	0	0
住民等				



Q17 本日、地域防災訓練に参加した感想や意見を、書いて下さい。

【本校生徒】

(1) 人との関わり・協力の大切さの実感

- 自衛隊の人たちに来てもらい、とてもいい経験が出来ました。この訓練を生かし、地域の人たちとの関わりを深め災害が起こったとき積極的に協力したいです。
- 地域の人と一緒に協力してできたと思います。
- 私は炊き出し係でジャガイモを108個手分けして皮をむいたり、切ったりしました。けっこう、改援隊の皆様に手伝ってもらったので、ほんとうにありがたく思います。もし、実際に大地震が起きたら私は自分に与えられた仕事や困った人がいたら話を聞いて、いろいろしてあげたいです。
- 本番の時、今日やったことを生かして、炊き出しの時にぼくが手伝ってあげることが大事なんだと思いました。
- 今日は忙しくて大変だったけど、本当におこったらこれ以上に忙しくなると思います。自分が無事なだけじゃだめで、地域の人が無事も考えなきゃならないことを今日はすごく体で感じました。
- もし本当に地震が起きたら今日みたいにすばやく炊き出しをしたり地域の方と一緒に頑張って人命救助などをできたらいいなと思いました。
- いろんな人の意見を聴けたためになった。
- 今日の地域防災訓練に参加し、地域全体で行うことの大切さがわかりました。
- 自分の係の仕事をきちんと出来た。パネルディスカッションや講演では、貴重な話を聞くことが出来た。地域を含んだ防災訓練は初めてだったのでどうなるか不安だったが、いつもと地域の人との関わりを持つことが出来た。

(2) 必要で大切な体験の認識

- 僕は、防災訓練はとても大事だなと思いました。なぜなら、少しは自分たちで出来ることを見つけられたからです。
- 初めてこんな大きな訓練をしました。炊き出しでは豚汁を作るのがすごく大変でした。でも、本当に災害があったらこういう経験が必要だと思いました。パネルディスカッションでは4名のいろいろな意見を聞いて良かったと思います。
- 自分たちの命を救うために、いい体験だったと思います。もし、本当におきたらこれを応用したいです。

- あんまり緊張感がなかったかも・・・。
- 今日は、初めて非常食や自衛隊の車を見ました。けっこうびっくりしました。非常食はけっこううまかったです。
- 今日、私は受付係をしました。この仕事とおし、中学生や若い人がこのような訓練をすることは大切なことだと思います。
- とても疲れたけれどいい経験になりました。
- 今日の経験をいかし、本番に備え人々手助けをしていきます。
- 当日になってみないとわからないことがたくさんあった。また、今日来た人たちも決して少ないといえないが、災害が現実のものになったら、もっとたくさんの方が来るのでパニックにならないように努める。
- 係の作業が防災訓練でしたが、みんなすぐに行動でき地域の人にも優しく接していました。実際に地震が起きたときも私たち中学生が今日のようにテキパキと行動し、地域の人たちに一刻も早く安心してもらうようにしたいです。そして、これからは、今日学んだことをいかして、枕に非常持出品を置いたりするなどすぐ行動したいと思います。

(3) 達成感と満足感の獲得

- つかれたけど、お茶やアクエリアスを配って、また、やってみたいです。
- 自衛隊の方々にも来て頂いて、給水車やテントをみせてもらったり、乗せてもらったりしました。地域の人たちや、改援隊の方々にも来て頂いてとても良い防災訓練になりました。自分の仕事もしっかりできたので良かったです。
- 係の仕事に対して考えると、仕事に責任を持って取り組むことができたと思います。
- 自分の仕事がちやんと果たせたのでよかったです。それに、地域防災訓練に参加できてよかったです。
- 自分の係の仕事を最後までしっかりと果たせたので良かったと思います。結構、地域の人とも交流が深められました。以外に楽しかったです。
- 今日は初めてやりました。以外とできたので良かったです。
- トイレの看板を作ったので、トイレの場所を聞かれたりしなかったのが良かった。
- 炊き出しの係をやるととても上手くいきました。自分の係の仕事はしっかり出来たし地域の人に食べてもらってすごくうれしかったです。

(4) これからの抱負や課題等の把握

- ぼくは、協力しあうことや助け合うことを災害が起きた場合すんでやりたいです。
- 今日の係の動きでは、まだ少し躊躇したりしたのでだめでした。薬の分担は非常に難しいということがわかりました。ぼくが、回った家が出てきたのは老人やおばさんやおじさんだった。
- 災害が起きたとき、今日やったことが役立てばいいなと思いました。
- 訓練をして、中学生にも色々なことができるようになったので、これからもっと良くし

ていくにはどうしたら良いのかを考えていきたいです。

- 近年100%に近い確立で起こる大地震に備えて、良い訓練になったと思いました。今日のことを忘れずにこれからがんばりたいです。
- 今日のことをこれから、いろいろと生かしていきたいです。
- 地域の皆さんと一緒に訓練が出来て本当にためになったと思います。これからも助け合って災害を乗り越りたいです。
- 炊き出しが大変だから、グザイを前日に切った方がよい。もっと本格的にやった方がよい。
- チラシ配りについては、当日配るよりも前日に配ったほうが宣伝効果が出る。
- 参加して良かったと思います。今後、また役立てたいと思います。
- 今日の訓練のように実際に起こったときも行動したいと思います。
- 今回は上手くできたが、本番がいつくるかわからない。急にくるので非常食と緊急の持ち物を準備していきたい。今回のように出来るかわからないと感じた。

#### (5) その他

- 今日の地域防災訓練をして、ぼくは、ちょっと不安でした。初めて、こういう大規模な訓練だったし、受付でこのようにやればいいのかと思って、なので、不安でした。でも、きちんと仕事をやりこなせたので良かったです。それから最初、自衛隊をみたとき、この人やっばり手榴弾とか持っているのかなと思って少しびびってしまいました。でも、やさしい人でいろんなものをさわらせてくれました。しかも、ぼくは給水車ってこんなに大きいんだなと思いました。あと、非常食とかもへーこんなに簡単に作れてこんなにおいしいんだなと思いました。なので、今日はすごく勉強になりました。
- 自衛隊の方々にきていただきテントや車を見学させてもらいました。豚汁もおいしかったです。シンポジウムでは、地震の怖さがわかりました。もしも、大地震が起きたらあわてず、落ち着いて避難したいと思います。
- 今日の訓練では自衛隊がどんなことをしているかや、非常用の食品にはどのようなものがあるのかなと思いました。
- 自衛隊の車に乗れて楽しかった。
- 自衛隊の車に乗ってすごく高いと思いました。

#### 【参加された地域住民】

##### (1) 学校・中学生の地域貢献

- 普段からの地域の情報が、いったん災害が起きたときに大変参考になるし、それが防災の基本となる。情報の共有が大切。災害はいつ起きるか判らない。日中の場合、いちばん力になるのが中学生である。今回の防災訓練は大変良かった。
- 少ない生徒ですが、一人一人一生懸命動いていました。初めての取組でしたが、みんながそれぞれ役割を果たしていたと思います。うまくいかなかった点は次回への教

訓にしていけば良いと思います。

##### (2) 中学生の活動に感謝・期待

- 中学生のみなさんご苦労様でした。これからもよろしくお願い致します。地区民として私達も努力致します。
- 子ども達が一生懸命頑張っている姿がとても良かった。私達も見習うところが多かった。
- ご苦労様でした。中学生はしっかり取り組んでおり大変良かったと思います。
- 徳山明さんの講演を聴くことができたことが、いちばんありがたいことでした。この企画に感謝申し上げます。
- 炊き出し調理の手伝いをさせていただきました。役割分担があり、手際よく感心したくらいです。先生も子ども達も一生懸命でした。
- 学校の先生、生徒さん達は役割分担等大変なことだったと思います。炊き出しや豚汁はたいへんおいしくいただきました。
- 初めての訓練にしては大成功だと思います。中学生の活躍、ご苦労様でした。豚汁、おにぎり、おいしくいただきました。
- 生徒の役割は大変良好と思いますが、案内する生徒に腕章を付けさせるとか、一般の人と区分する必要があると思います。生徒の皆さんは安全のため、通学時に使用しているヘルメットをかぶるなども必要と思います。今回、企画した学校に敬意を表します。

##### (3) 防災の準備・訓練の必要性

- 学校教育の中に防災についてが入っていると、災害時の自衛隊の派遣についてとか、初めての情報が大変良かった。
- 今回の訓練によって、たくさんの体験ができとても良かったと思います。また、問題点なども見えてきたので、次回に生かすことができたら良いと思います。いつ起こるか分からない災害に準備する必要性を強く感じました。
- 第一回なので、まだまだ戸惑う事が多かったし、子ども達も大人達も腹を据えてやってみる事が必要では。私達は年を重ねるごとに体が動かなくなるので、生徒さんたちの手助け、大いに助かります。
- 学校が避難所になるので、学校も入っての地域防災訓練は、大変大切なことと思います。防災マップもぜひ地域の方と作成しましょう。

##### (4) 防災意識の高揚

- 私は地域防災活動に参加している者です。防災を考える上で大事なことは、平日頃いかに住民に意識を持ってもらえるかだと思います。災害が来る来ると不安をあおるのではなく、起きたらどうするか、どういう行動をするか、それが大事だと思います。今回のような訓練は非常に大事で、有意義なことです。生徒達と一緒に行動し、



そして、防災意識を高め合う、こういうことを今後も定期的に行えることを期待するものです。

- 給食の食べ方が避難者らしい楽な姿勢で食べていて勉強になりました。学校を中心とした講演は聴いたことがなかったので、ためになりました。
- 本日の講演を聴き、普段から地域内の交流を図り、防災に対応できる地域づくりが大切と感じた。

#### (5) 課題・問題の指摘

- 地域住民の意識の改革を図り、参加を増やすことが課題と考えます。
- PTAの参加が少ないと思うが・・・。
- 調理室だけにいたので、外の子ども達、親たちが、どんなことをやっていたのかが分からず残念に思いました。
- 防火クラブとして参加したのですが、防災訓練としてはのんびりしすぎたと思いました。
- 初めての訓練なので、今後いろいろと中身を検討していくべきだと思います。防火クラブの役割は、何をしたら良いのか・・・。中学生は私たちに声がけするのですが、声が小さいので、もう少しはっきりした声で・・・。
- 今日の防災訓練は中学校としてなのですか。始まる前にきちんと説明をしてください。
- 講演は難しかったです。こういう訓練は大変良かったと思いますが、地域の人たちの関心が少ないように思いました。
- もう少し地域住民の参加が必要に思う。
- 中学生が意識を持つには、もっと地域住民の参加・連携があっても良かったと思う。
- 子ども達が何をしているのかが見えなかった。もっときびきび動いたほうが良いと思った。
- 子ども達の声が小さい。大きい声を出したほうが良い。
- 参加した人の役割が分からない。ただの見学だけなのか、そのあたりの説明があっても良かったのではないかと。

#### 4. 調査項目間の相関分析

生徒と参加者に対するアンケート調査について、それぞれの調査項目間の相関分析を行い、調査項目間の関わり具合について分析を行う。

なお、相関分析により求められる項目間の相関係数は、「相関の強さ」を示し、その強さについては経験的に判定するものの、一般的な基準として以下の値を目安とする。

- 強い相関がある 1~0.7 (-1~-0.7)
- 中程度の相関がある 0.7~0.4 (-0.7~-0.4)
- 弱い相関がある 0.4~0.2 (-0.4~-0.2)
- ほとんど相関がない 0.2~0 (-0.2~0)

#### (1) 生徒に対するアンケート調査の相関分析

相関係数を算出すると以下の表のとおりになり、中程度の相関を示した項目間は網掛け(相関係数0.40以上)のとおりである。

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16
Q1		0.24	0.06	0.40	0.22	0.37	0.29	0.23	0.44	0.25	0.35	0.17	0.40	0.36	0.47	0.45
Q2			0.46	0.24	0.10	0.09	0.38	0.31	0.46	0.05	0.24	0.17	0.39	0.13	0.30	0.28
Q3				0.19	0.02	-0.01	0.09	0.35	0.35	0.22	0.27	0.46	0.11	0.32	0.23	0.09
Q4					0.27	0.07	0.48	0.41	0.49	0.46	0.27	0.26	0.46	0.15	0.51	0.44
Q5						0.26	0.31	0.24	0.13	0.33	0.42	0.10	0.16	0.32	0.24	0.34
Q6							0.11	0.29	0.33	0.30	0.37	0.22	0.14	0.40	0.40	0.32
Q7								0.34	0.40	0.31	0.23	0.21	0.26	0.14	0.30	0.32
Q8									0.35	0.37	0.35	0.23	0.10	0.37	0.30	0.21
Q9										0.22	0.13	0.25	0.43	0.17	0.46	0.56
Q10											0.43	0.37	0.10	0.17	0.33	0.48
Q11												0.68	0.23	0.36	0.41	0.42
Q12													0.27	0.20	0.24	0.43
Q13														0.23	0.53	0.53
Q14															0.56	0.31
Q15																0.59
Q16																

特に相関係数が高かったものについて、以下に抜粋し、分析・考察を加えて見る。

##### ① Q11とQ12 [相関係数0.68]

Q11、講演については、どの程度、お役に立つ内容でしたか。

Q12、パネルディスカッションについては、どの程度、満足しましたか。

<考察>

生徒にとって大学の名誉教授の講演と関係者4人によるパネルディスカッションに関連性を感じており、主催者の意図する講演とパネルとの関わりを重視した内容が、生徒に受け入れられたことが分かる。

##### ② Q15とQ16 [相関係数0.59]

Q15、本日のような行事は、地域の皆さんと中学生の関わりがどの程度、深まると感じますか。

Q16、これまで行ってきた防災教育は、大切だと感じますか。

<考察>

これらの項目間の相関から、生徒は防災教育を通じて、地域住民との関係性の深まりを感じていることをうかがい知ることができる。

③ Q14とQ15【相関係数0.56】

Q14、地域や公民館、そして学校が一緒になって、様々な活動や取組を実施することは、地域の活性化にどの程度つながると感じていますか。

Q15、本日のような行事は、地域の皆さんと中学生の関わりがどの程度、深まると感じますか。

<考察>

生徒は、地域・学校・公民館との連携した取組によって、地域の活性化と、地域住民との関わりやすさについて、それらの関連性を感じていることがうかがえる。

④ Q9とQ16【相関係数0.56】

Q9、中学生や学校が地域防災訓練に参加や協力することは必要と感じていますか

Q16、これまで行ってきた防災教育は、大切だと感じますか。

<考察>

生徒は、地域防災訓練に参加・協力する必要性を通じて、防災教育の大切さを感じていることがうかがえる。

(2) 防災訓練の参加者に対するアンケート調査の相関分析

相関係数を算出すると以下の表のとおりになり、強い相関と中程度の相関を示した項目間は網掛け(相関係数0.50以上)のとおりである。

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	
Q1		0.70	0.38	0.11	0.30	0.02	0.03	0.55	0.30	0.32	-0.05	0.34	0.26	0.54	0.26	
Q2			0.46	0.35	0.45	0.14	0.12	0.41	0.58	0.31	0.17	0.50	0.51	0.58	0.26	
Q3				0.41	0.66	-0.04	0.70	0.28	0.24	0.37	0.05	0.33	0.43	0.57	0.67	
Q4					0.53	0.09	0.48	0.31	0.25	0.26	0.38	0.67	0.54	0.46	0.54	
Q5						0.18	0.66	0.26	0.26	0.33	0.38	0.67	0.42	0.45	0.52	
Q6							0.13	0.32	0.36	-0.06	0.16	0.21	0.14	0.12	0.05	
Q7								0.08	0.09	0.23	0.14	0.40	0.34	0.37	0.70	
Q8									0.42	0.34	0.07	0.37	0.22	0.41	0.21	
Q9										0.31	0.31	0.45	0.69	0.58	0.15	
Q10											0.14	0.18	0.22	0.31	0.20	
Q11												0.51	0.21	0.08	0.19	
Q12													0.43	0.48	0.40	
Q13															0.51	
Q14																0.61
Q15																

特に相関係数が高かったものについて、以下に抜粋し、分析・考察を加えて見る。

① Q13とQ14【相関係数0.85】

Q13、本日の防災訓練のように、地域や公民館と、学校が一緒になって取り組む活動が、増えることをどう思いますか。

Q14、地域や公民館、そして学校が一緒になって、様々な活動や取組を実施することは、地域の活性化にどの程度つながると感じていますか。

<考察>

地域住民は、地域や公民館、学校が一緒になって取り組む様々な活動が増えることにより、地域の活性化が推進されると強く認識していることがうかがえる。

② Q1とQ2【相関係数0.70】

Q1、本日のような訓練に限らず、一般的に地域防災訓練を行うことは、必要と考えますか。

Q2、地域だけで行う防災訓練とくらべて、本日のように学校と公民館、そして地域住民が一緒になって防災訓練を行うことは必要と考えますか。

<考察>

地域住民は地域防災訓練の必要性を感じており、その具体として学校・公民館・地域が一緒になって行う訓練をより必要と考えていることがうかがえる。

③ Q3とQ7【相関係数0.70】

Q3、中学生が地域防災訓練で係に分かれて活動しましたが、本日の地域防災訓練でどの程度、中学生は貢献ができたと思いますか。

Q7、実際に大きな地震が起きた場合、本日のような地域防災訓練は、どの程度に役立つと思いますか。

<考察>

地域住民は、地域防災訓練における中学生の貢献を高く評価し、実際に起きる地震等の災害において中学生の活躍を期待しているものとうかがえる。

④ Q7とQ15【相関係数0.70】

Q7、実際に大きな地震が起きた場合、本日のような地域防災訓練は、どの程度に役立つと思いますか。

Q15、本日のような行事は、地域の皆さんと中学生の関わりがどの程度、深まると感じますか。

<考察>

地域住民は、中学生が役割分担して訓練に参加・協力することにより、中学生との関わりやすさを感じられていることがうかがえる。

⑤ Q9とQ13【相関係数0.69】

Q9、中学生や学校が地域防災訓練に参加や協力することは必要と感じていますか

Q13、本日の防災訓練のように、地域や公民館と、学校が一緒になって取り組む活動が、増えることをどう思いますか。

<考察>

地域住民は、地域防災訓練に地域・公民館・学校と一緒に取り組むことを望んでおり、その際には中学生の参加・協力が必要であると感じ、中学生の地域貢献に大いに期待していることがうかがえる。

5. 調査データの因子分析

生徒と参加者にアンケート調査を行い、その調査データを因子分析し、生徒や参加者が調査に対してどのような潜在的意識を抱き、調査結果に影響力を及ぼしているか、検証してみる。

(1) 生徒に対するアンケート調査データの因子分析

因子名 (仮定)	問 Q	アンケート調査内容	因子			
			1	2	3	4
因子 I 訓練の 参加・協 力体制	9	中学生や学校が地域防災訓練に参加や協力することは必要と感じていますか	.772			
	2	地域だけで行う防災訓練とくらべて、本日のように学校と公民館、そして地域住民と一緒に防災訓練を行うことは必要と考えますか。	.695			
	13	本日の防災訓練のように、地域や公民館と、学校と一緒に取り組む活動が、増えることをどう思いますか。	.692			
因子 II 訓練に よる 人々の 関係	6	本日のような避難や避難所体験が必要となる、大きな地震がどの程度おこると感じられていますか。		.777		
	14	地域や公民館、そして学校と一緒に、様々な活動や取組を実施することは、地域の活性化にどの程度つながると感じていますか。		.764		
	15	本日のような行事は、地域の皆さんと中学生の関わりがどの程度、深まると感じますか。		.591		
	1	本日のような訓練に限らず、一般的に地域防災訓練を行うことは、必要と考えますか。		.541		
因子 III 訓練の 実施内 容	3	中学生が地域防災訓練に係りに分かれて活動しましたが、本日の地域防災訓練でどの程度、中学生は貢献ができたと思いますか。			.815	
	12	パネルディスカッションについては、どの程度、満足しましたか。			.737	
	11	講演については、どの程度、お役に立つ内容でしたか。			.586	
	8	地域防災訓練は、毎年、実施する必要があると考えますか。			.480	
因子 IV 訓練の 成果	10	飲み出しについて、どの程度、満足しましたか。				.732
	4	本日の地域防災訓練に参加・体験して、どの程度、良かった・ためになったと感じられましたか。				.627
	5	本日に避難所体験をされ、もし、実際に地震などで避難するときになったら、本日の避難所体験は、どの程度、役に立つと感じられましたか。				.612
	7	実際に大きな地震が起きた場合、本日のような地域防災訓練は、どの程度に役立つと思いますか。				.571

以上の分析結果から、中学生が調査に答える際に潜在的に最も強く影響を及ぼしていることは、防災訓練の参加・協力体制（因子I）である。このことは、中学生は学校と中学生、公民館や地域住民と一緒に訓練に取り組む必要性を最も重要視していることが分かる。

次に中学生が強く意識していることは、訓練による人々の関係（因子II）であり、訓練による中学生と地域住民の絆の深まりや地域活性化の成果を抱いていることが分かる。

三番目には、訓練の実施内容（因子III）であり、中学生が貢献できる実施内容であると感じ、貢献しなければならぬことを知ることができたことや、訓練にあわせて実施した講演やパネルディスカッションを有意義なものであると捉えていることが分かる。

四番目は訓練の成果（因子IV）で、アンケートの「訓練体験が良かった・ためになった」で、とても62%、まあまあ38%であり、その他の集計結果からも、中学生が訓練を大いに評価していることが分かる。

(2) 防災訓練の参加者(地域住民等)に対するアンケート調査データの因子分析

因子名 (仮定)	問 Q	アンケート調査内容	因子			
			1	2	3	4
因子 I 訓練の 必要性 と連携	1	本日のような訓練に限らず、一般的に地域防災訓練を行うことは、必要とお考えですか。	.938			
	2	地域だけで行う防災訓練とくらべて、本日のように学校と公民館、そして地域住民と一緒に防災訓練を行うことは必要と考えますか。	.785			
	8	地域防災訓練は、毎年、実施する必要があると考えていますか。	.732			
	14	地域や公民館、そして学校と一緒に、様々な活動や取組を実施することは、地域の活性化にどの程度つながると感じていますか。	.607			
	15	本日のような行事は、地域の皆さんと中学生の関わりがどの程度、深まると感じますか。	.576			
因子 II 訓練の 成果	11	講演については、どの程度、お役に立つ内容でしたか。		.805		
	12	パネルディスカッションについては、どの程度、満足されましたか。		.799		
	5	本日に避難所体験をされ、もし、実際に地震などで避難するときになったら、本日の避難所体験は、どの程度、役に立つと感じられましたか。		.734		
	4	本日の地域防災訓練に参加・体験して、どの程度、良かった・ためになったと感じられましたか。		.731		
因子 III 参加・協 力の体 制	13	本日の防災訓練のように、地域や公民館と、学校と一緒に取り組む活動が、増えることをどう思いますか。			.812	
	9	中学生や学校が地域防災訓練に参加や協力することは必要と感じていますか			.812	
	6	本日のような避難や避難所体験が必要となる、大きな地震がどの程度おこると感じられていますか。			.792	
因子 中学生 の貢献	7	実際に大きな地震が起きた場合、本日のような地域防災訓練は、どの程度に役立つと思いますか。				.922

IV	3	中学生が地域防災訓練で係に分かれて活動しましたが、本日の地域防災訓練でどの程度、中学生は貢献ができたと思いますか。				.816
	10	炊き出しについて、どの程度、満足されましたか。				.470

参加者である地域住民等については、最も潜在的に意識していたことが訓練の必要性和連携（因子Ⅰ）であり、学校と中学生を含めて地域を挙げて一体となり、訓練を実施することが必要であると認識していることが分かる。さらに、このことにより、住民は地域の活性化や中学生との関わり深まることも感じていることが分かる。

次いで強い因子が訓練の成果であり、アンケートの集計結果から高い割合で良好な評価を得られている。

三番目には参加・協力の体制（因子Ⅲ）であり、地域の多様な協力体制の整備を意識している様子がうかがえる。四番目には、中学生の貢献（因子Ⅳ）を地域住民の皆さんが訓練を通じて感じていることが分かる。

## 6、成果と課題等について

アンケート調査の結果、ほぼ全ての生徒と参加した地域住民は、今回の地域防災訓練の必要性や重要性を感じ、その実施の意義や目的等を理解していることが判明し、成果が得られたものと分析できる。

さらに、学校と中学生そして地域住民は、地域防災において互いに協力し、助け合い、励まし合い、互いに関わり合うことが、重要であり必要不可欠であると、この訓練で認識をあらたにされていることが分かる。

これらのことは、アンケート調査の項目間の相関分析から確認することができ、次に示すような分析結果からその成果・効果等が検証されている。

### <中学生における調査項目間の相関分析>

- これらの項目間の相関から、生徒は防災教育を通じて、地域住民との関係性の深まりを感じていることをうかがい知ることができる。
- 生徒は、地域・学校・公民館との連携した取組によって、地域の活性化と、地域住民との関わり方の深まりについて、それらの関連性を感じている。
- 生徒は、地域防災訓練に参加・協力する必要性を通じて、防災教育の大切さを感じている。

### <地域住民における調査項目間の相関分析>

- 地域住民は、地域や公民館、学校と一緒に取組む様々な活動が増えることにより、地域の活性化が推進されると強く認識している。
- 地域住民は地域防災訓練の必要性を感じており、その具体として学校・公民館・地域と一緒に挙げて行う訓練をより必要と考えている。
- 地域住民は、地域防災訓練における中学生の貢献を高く評価し、実際に起きる地震等の災害において中学生の活躍を期待している。

- 地域住民は、中学生が役割分担して訓練に参加・協力することにより、中学生との関わりに深まりを感じられている。
- 地域住民は、地域防災訓練に地域・公民館・学校と一緒に取組むことを望んでおり、その際には中学生の参加・協力が必要であると感じている。

一方、地域住民の記述からは、住民の意識の改革を図り、訓練参加者を増やすことが課題であるという、貴重な指摘を受けており、今後は公民館等とも連携を強めて、より多くの住民の参加を図る必要がある。そして、より多くの人々に、防災への関心と意識を高めることによって、本地域の防災対応力を向上させていくことが重要な課題であると考えられる。

さらに、アンケート調査データの因子分析を行うと、次の通りの結果が得られた。因子分析では、因子Ⅰが最も調査対象者（中学生、地域住民等の参加者）の潜在的意識が強く、調査に影響していることを示すものであり、次いで因子Ⅱ、Ⅲ、Ⅳとなるほど意識への影響力が弱くなる。

	因子名	
	中学生	地域住民等の参加者
因子Ⅰ	訓練の参加・協力体制	訓練の必要性和連携
因子Ⅱ	訓練による人々の関係	訓練の成果
因子Ⅲ	訓練の実施内容	参加・協力の体制
因子Ⅳ	訓練の成果	中学生の貢献

因子分析からは、調査に最も強く影響を及ぼしている内容が、中学生では、学校や公民館、地域住民と一緒に訓練に参加して協力し合う体制を必要としていることが分かる。訓練に参加した地域住民等は、最も影響していることが、訓練の必要性和学校・地域・公民館等が連携して実施することにある。このことから、中学生も地域住民も、ともに地域の多様な方々が協力・連携することを最も必要であり、重視していることが検証された。

その次に影響力を及ぼしていることが、中学生では地域住民と中学生の関わり方の深まり等と多様な方々の関わりによる地域の活性化であり、地域住民等は訓練の成果を示唆している。そして、続く影響力としては、中学生が訓練の実施内容とその成果、地域住民等が協力体制や中学生の貢献について成果を示唆していることが検証された。

このように、因子分析からは地域防災訓練に学校と中学生が主体的に関わり、地域を挙げて取組むことで、参加・協力体制づくりと地域活性化、中学生や住民間の絆の深まりなど、多様な成果や効果が高まり得られることが確かめられた。

地域防災訓練 生徒の係分担と活動内容の検討ワークシート

【2 災害状況・情報収集】

学年：2 名前：前川莉穂

担当の先生：齋藤祐一、佐藤 朋、(宮城克博)

担当生徒数：各戸チラシ配布7人、公民館から引率2人×2公民館

<担当生徒名> 係長 [伊藤まこと小齋 (3年)], 副係長 [林美隆小齋 (3年)]  
 1年生：天野愛小齋, 齋藤捷小齋, 平塚航金山, 前川真穂金山  
 2年生：浅田諒太金山, 前川莉穂金山, 松野英里小齋  
 3年生：伊藤まこと小齋, 林美隆小齋, 伊藤慎也小齋, 武藤広樹金山

1. 活動計画・概要

NO	活動の計画と概要	自分で考える活動	活動の決定内容[検討した結果]
1	防災隊員等と一緒に各家を訪問してチラシを配布		
2	隊員等と一緒に公民館から参加者を中学校に誘導	お年寄りなど、安心させられるように声をかける。	安全に、安心させられるように、誘導する。
3	けがをしていた人がいたら、簡単な手当をする。	ちよっとのけがでも、していたら、見つける。	積極的に声をかけ、けがしている人を見つけてみる。
4			

2. 準備物 [個人的、全体的]

個人的：  
 全体的：救急箱 (ばんそうこう、消毒液、ガーゼ、など、簡単なもの)、腕時計

3. 係活動のアピール [地域防災の貢献など：訓練実施に向けての係活動について]

個人的：自分も一緒に暗くなるのではなく、自分が声をかけることで、安心させられるように、考えて会話をする。  
 係全体：たくさんの人に、信じてもらえるように、コミュニケーションをとる。明るく、はっきりと、声をかけ、不安にさせない。

4. 訓練活動の成果や課題<訓練実施の後>

	成 果	課 題
個人的	地域の方と一緒に訓練できたし、自分の係の活動の中で、学んだことがあったので、良かった。	障害者の方がいたら、素早く手を貸す。報告を明確にする。
係全体	知らなかった人とも、この訓練を通して話したし、楽しいこと学んだ。それに課題も見つけられた。	前日から呼びかけをきちんとしたほうがいいと思った、自分達で、できることをもと探して地域の人の不安を少しでもなくしたい。

5. 実際の災害発生時に自分が行えること・行うこと<各自>

障害者の方がいるので、その時は積極的に手を貸す。  
 近所の人々の安全を確認する。  
 災害発生時は、大きな声で生存者を探る。  
 災害の状況をなるべく明確に知っておく。

地域防災訓練 (災害状況・情報) 係活動の振り返り  
 収集

1. 係の活動内容

○地区ごとに各家を訪問してチラシを配布。  
 ○金山公民館と小齋公民館から、参加者を中学校へ誘導

2. 係としての成果と課題

○チラシ配り  
 ・当日にチラシを配っていた。担当の改援隊の人が別の前日に配布は良かった。係に行っていた。  
 ・ほとんどの家が「お年寄り」では「チラシの量をもっと多く、やく避難するのが難しい。」  
 ・車の手配が「明確」ではなかった。日中は留守が多かった。

○誘導  
 ・地域の方に積極的に話しかけることができた。  
 ・活動を通して「学んだこと」があった。

3. 地域防災訓練全体をとおして感じた成果と課題

・近所の人々が助けを求められる場合、助けてあげる。  
 ・公民館や小学校に車等を手配する。  
 ・非常用のボタニがあるといい。(呼びかけ、回覧板など)  
 ・避難ルートを決めておいたほうがいい。  
 ・普段からお年寄りの家などに行ってみる。  
 ・中学生が積極的に助けに行く。  
 ・お年寄りの家に地震速報をつける。(サイロ的な物を)

・障害者の方には積極的に手を貸す。  
 ・避難ルートは、もと安全なところがないか確認する。  
 ・報告は、明確にし、正しく報告できるようにする。

4. 3を踏まえて、これから自分たちがすべきこと

◎自分たちがすべきこと  
 ・チラシを作って配る。  
 ・普段からお年寄りの家などに行ってみる。  
 ・中学生が積極的に助けに行く。  
 ・避難ルートを決めておいたほうがいい。

◎自分たちではできないので、関係機関にお願いしたいこと  
 ・回覧板で伝える。  
 ・公民館や小学校に車等を手配する。  
 ・非常用のボタニがあるといい。(呼びかけ、回覧板など)  
 ・お年寄りの家に地震速報をつける。(サイロ的な物を)

◎防災マップに盛り込んだ方がいいこと  
 ・安全な場所  
 ・危険な場所  
 ・どなたが住んでいるのか

地域防災訓練 生徒の係分担と活動内容の検討ワークシート

【3 避難所・受付】

学年：3 名前：目黒 有由美

担当の先生：藤森良子、齋藤真司、(岡崎教頭)

担当生徒数：6人

<担当生徒名> 係長 [目黒有由美 (3年)], 副係長 [柳沼和雅 (3年)]  
 1年生：目黒力  
 2年生：齋藤絢香  
 3年生：目黒有由美, 柳沼和雅, 遠藤舞, 窪田未来

1. 活動計画・概要

NO	活動の計画と概要	自分で考える活動	活動の決定内容[検討した結果]
1	参加予定者の名簿で、受付を実施	各地区ごとに受付	=
2	参加予定者の受付状況を本部へ報告	受付した人の人数報告	=
3	炊き出し試食の予約者・希望者に引換券を配布・集金	昼食券の配布・集金	=
4	自宅や親族等からの電話等の呼出・問合せの対応	実際の状況に合わせて	=
5			

2. 準備物 [個人的、全体的]

個人的：筆記用具  
 全体的：受付表、昼食券、缶(お金を入れるため)、当日の資料、(100円玉、30枚(おつり))

3. 係活動のアピール [地域防災の貢献など：訓練実施に向けての係活動について]

個人的：  
 時が経ちてきた方々に安心してもらえるように笑顔で接する。  
 係全体：声大きくハッキリと出る。仕事をすばやくスムーズに正確にこなす。

係全体

4. 訓練活動の成果や課題<訓練実施の後>

	成 果	課 題
個人的	発表などで声が大きくなった。 知らない人でもあいさつするようになった。	本部の場所を職員室にしたい。 体育館内の配置を分かりやすくする。 案内係を1~2人置く
係全体	自ら進んで行動できるようになった。 防災への意識が高まった。 自分の中で改善策を考えるようになった。	給水所をセルフサービスにすれば、 救護係は救護に専念できる。 訓練を実際の状況に近づけた方がよい。

5. 実際の災害発生時に自分が行えること・行うこと<各自>

誰か避難しているかの報告。  
 求た人を笑顔で安心させる。

地域防災訓練 ( 受付 ) 係活動の振り返り

1. 係の活動内容

○ 昼食券の配布・集金 ○ 安全確認 ○ 受付した人数の報告  
 ○ スリッパ補完 ○ 当日参加の方の受付 ○ 靴置き場への誘導  
 など

2. 係としての成果と課題

○ 各係担当者はいたが、協力して仕事できた  
 ○ 計画はあったが、時と場合に応じて行重かできた。  
 ○ 受付人数を2、3人増員  
 ○ スロープの設置

3. 地域防災訓練全体をとおして感じた成果と課題

○ 自分から進んで行重かするようになった。  
 ○ 防災に対する意識が高まった。  
 ○ 自分の中で改善策を考えるようになった。  
 ○ 発表などで声が大きくなった。  
 ○ 知らない人でもあいさつをするようになった。

4. 3を踏まえて、これから自分たちがすべきこと

◎自分たちがすべきこと  
 ○ 避難所の見取り図  
 ○ 係ごとの場所の提示をつくる  
 ◎自分たちではできないので、関係機関にお願いしたいこと  
 ○ 車いす用のスロープの設置  
 ○ 非常食  
 ◎防災マップに盛り込んだ方がいいこと  
 ○ 避難所のマーク  
 ○ 地域の危険箇所  
 ○ 空家  
 ○ 一人ぐらしの老人世帯

地域防災訓練 生徒の係分担と活動内容の検討ワークシート

【4 避難所の設営・運営と接待等】 学年: 3 名前: 平塚 涼太

担当の先生: 齋藤真司、藤森良子、宮城克博(岡崎教頭)

担当生徒数: 14人

<担当生徒名> 係長 [ 平塚涼太(3年) ], 副係長 [ 戸村和樹(3年) ]  
 1年生: 窪田淳弘, 高野凌, 戸村大介, 星大地, 星直弥, 目黒滉汰  
 2年生: 天野翔, 目黒尚紀, 八巻流星  
 3年生: 平塚涼太, 戸村和樹, 加藤史崇, 渡辺康平, 齋藤祐希

1. 活動計画・概要

NO	活動の計画と概要	自分で考える活動	活動の決定内容[検討した結果]
1	椅子、畳やマット等を体育館内に設置、避難所を設営	机・いす・畳(20枚)の準備 短時間で終わらせる	短時間で終わらせる すばやくおかわせ 他の準備の手伝い
2	参加者をトイレ・自衛隊の展示等への案内	大きな声でわかりやすく説明する	大きな声でわかりやすく説明 皆を集めて説明
3	11:00 からビデオ放映の準備	機材のチェック	時間の前に機材をチェック
4	自衛隊の展示・説明等の援助		静かに聞くことができるよう 気を配る
5	非常持ち出し用具等の展示	わかりやすいように置く	見やすくなるよう配置する

2. 準備物 [個人的、全体的]

個人的:  
 全体的: 非常持ち出し用具, ビデオ機材, トイレ案内表示

3. 係活動のアピール [地域防災の貢献など: 訓練実施に向けての係活動について]

個人的: 仲間と協力して活動し、防災について考える  
 係全体: 過ごしやすい避難所環境づくりに努める

4. 訓練活動の成果や課題<訓練実施の後>

	成 果	課 題
個人的		
係全体		

5. 実際の災害発生時に自分が行えること・行うこと<各自>

1. 係の活動内容

・避難所設営(畳・マット準備受付机、案内表示)  
 ・案内・誘導  
 ・防災用具展示・案内

2. 係としての成果と課題

成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動中に机を取り除く必要がなかった</li> <li>○非常食のつくりかたがわかった</li> <li>○準備が足りたことわかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マット量が少ない</li> <li>○段差が多く、体の不自由な人に不便</li> </ul>

3. 地域防災訓練全体をとおして感じた成果と課題

- 先生がいないとき、中学生だけでできるだろうか
- 地域の人との会話が少なかった
- マット、畳が足りない
- 段差が多く、体の不自由な人に不便

4. 3を踏まえて、これから自分たちがすべきこと

◎自分たちがすべきこと

- ダンボールを保管しておく
- 地域の人々に進んでお話を聞く
- 段差にしく板を置く

◎自分たちではできないので、関係機関にお願いしたいこと

- 渡辺組に畳を借りられるようにしておく
- 階段の一部をバリアフリーに工事する

◎防災マップに盛り込んだ方がいいこと

地域防災訓練 生徒の係分担と活動内容の検討ワークシート

【5 保健・救護】

担当の先生：星 ふじ子  
担当生徒数：4人

＜担当生徒＞	係長 [ 星 佳奈 (3年) ]、副係長 [ 星 光希 (2年) ]
	1年生：佐藤裕輝
	2年生：星 光希、菅野 歩美
	3年生：星 佳奈

1. 活動計画・概要

No.	活動の計画と概要	自分で考える活動	活動の決定内容(検討した結果)
1	体調不良、ケガ等に迅速処置		体温測定、血圧測定
2	避難所を巡回して、健康チェック・相談に対応	健康チェックシート腕章	チェックシートを作り、記録していく。
3	飲み物の提供	冷たい飲み物、また温かい飲み物、タオル、毛布、ポカリ	天候を想定し、冷たい飲み物、また、温かい飲み物を準備。

2. 準備物【個人的、全体的】

個人的：ペン、筆記用具  
全体的：健康チェックシート、バインダー、水(タンク)アクエリアス12本、紙コップ200個、麦茶(ボトル)、マジック、救急薬品、血圧計、係腕章

3. 係活動のアピール【地域防災のアピール】

個人的：・体調不良を訴えた人やけが人の処置をしよう。  
・みんなが安心できるような活動をしよう。  
全体的：体調を気遣う言葉がけを行い、避難してきた人に安心してもらえるような活動をおこなう。

4. 訓練活動の成果や課題<訓練実施の後>

	成果	課題
個人的	・あまり空気が固くなかったので落ち着いて声がかげできた。 ・飲み物の提供や健康チェックなどをがんばった。	・緊張した空気の場合、どれだけ落ち着いて声がかげできるか。空気を柔らかくできるか。
係全体	・地域の人たちとたくさん話ができ、関わりを持てた。 ・水分提供や健康チェックなどをがんばって活動したので、喜んでもらった。 ・健康チェックでは、声がかげを40人、血圧測定を24人におこなった。 ・地域の人を気づかう言葉がかげできた。 ・地域の人から話しかけられたり、頼ってもらったりして自信が持てた。 ・実際にやってみて、自分の係の仕事がよく分かった。	・声が小さくて、相手に聞きとりにくくなってしまった。(声の大きさや話し方) ・たまに、会話が成り立たなかった。 ・水分提供の時に一斉にたくさんの人があると、あわててしまい提供が遅くなってしまった。(一斉に大勢の人が来たときの対応の仕方) ・血圧測定のコーナーに正常値を書いて掲示すればよかった。(掲示の工夫)

5. 実際の災害発生時に自分が行えること・行うこと<各自>

・気分の悪い人を見かけたら、声をかけ、助けたい。  
・食事の配布など手伝えることがあればやりたい。  
・訓練でやったように体調不良、ケガなどに対応できると思う。  
・健康チェックなどを行うことで避難してきた人に安心してもらえると思った。

地域防災訓練を終えて 係ごとの成果と課題

係名： 保健・救護

今回の地域防災訓練を振り返って、班ごとにまとめましょう。

1 自分たちで考えて活動計画を作る事ができましたか。

○できなかったところ、難しかったことは何ですか。  
・避難所にどんな物があったら便利(生活しやすい)か、何があればいいのかを考えた時が難しかった。  
・何をすれば一番、避難してきた人が安心できるか、便利(避難所で生活しやすく)になるか、どんな気づかいをすれば元気になってもらえるかなど、活動内容を決めた時が難しかった。

2 計画通り行動することができたか。

○できなかったところ、難しかったことは何ですか。  
・時間を忘れるくらい一生懸命にやって、交代の時間を忘れそうになった。  
・水分提供の活動で混雑していた時に、あわててしまって、スムーズにコップの受け渡しが出来なかったりした。  
・健康チェックをした時に、訴えのあった症状に対応出来ない時があった。(足、腰の訴えなど)

3 防災訓練の成果を感じる事ができましたか。

○どんな成果を感じましたか。  
・地域の人たちとたくさん話ができ、関わりを持てた。  
・水分提供や健康チェックなどをがんばって活動したので、喜んでもらった。  
・健康チェックでは、声がかげを40人、血圧測定を24人におこなった。  
・地域の人を気づかう言葉がかげできた。  
・地域の人から話しかけられたり、頼ってもらったりして自信が持てた。  
・実際にやってみて、自分の係の仕事がよく分かった。

4 防災訓練を通して、今後の課題や問題点に気づくことができたか。

○どんな課題や問題点に気づきましたか。  
・声が小さくて、相手に聞きとりにくくなってしまった。 (声の大きさや話し方)  
・たまに、会話が成り立たなかった。  
・水分提供の時に一斉にたくさんの人があると、あわててしまい提供が遅くなってしまった。(一斉に大勢の人が来たときの対応の仕方)  
・血圧測定のコーナーに正常値を書いて掲示すればよかった。(掲示の工夫)

5 その課題や問題点を解決するためにはどうすればよいか話し合いまとめましょう。

・ゆっくり、はっきりと大きな声で相手に聞き取りやすい声がかげを行う。  
・たくさんの人避難してきた時に、一列に並んでもらって水分提供ができるように場所のセッティングを工夫する。  
・わかりやすく掲示物を貼って、避難所で生活しやすく工夫する。





地域防災訓練 生徒の係分担と活動内容の検討ワークシート

【6 炊き出し調理】

学年：3 名前：松野有美香

担当の先生：大沼志津子、小野まりえ  
担当生徒数：14人

<担当生徒名> 係長 [ 齋藤美穂 (3年) ], 副係長 [ 松野有美香 (3年) ]  
1年生：大内悠, 佐山桃花  
2年生：天野湖都理, 黒田ねね, 黒田勇希, 佐久間孝生, 星祐希, 森弘太郎, 蓬田尚貴  
3年生：齋藤美穂, 松野有美香, 砂澤優佳里, 伊藤将志, 鈴木尚弥

1. 活動計画・概要

NO	活動の計画と概要	自分で考える活動	活動の決定内容[検討した結果]
1	食材の準備と購入(食数を把握して)		
2	おにぎり、豚汁(すいとん)等の調理	おにぎりをキレイな三角形になるように握る。	すばやく作る。
3	避難所での参加者への配膳・引換券による引渡し	常に笑顔!!	笑顔第一
4			
5			

2. 準備物[個人的、全体的]

個人的：エアロン、三角布、マスク。  
全体的：...

3. 係活動のアピール[地域防災の貢献など：訓練実施に向けての係活動について]

個人的：テキパキと行動する。

係全体：衛生第一に被災した人の心がホトになるような美味しいものを心をこめて、すばやく作る。

4. 訓練活動の成果や課題<訓練実施の後>

	成 果	課 題
個人的		
係全体		

5. 実際の災害発生時に自分が行えること・行うこと<各自>

地域防災訓練 (炊き出し) 係活動の振り返り

1. 係の活動内容

炊き出し

2. 係としての成果と課題

○どんな成果を感じましたか。  
実際に起きたときのことかイメージできた。 " に炊き出しは役に立つとわかった。  
" にいかり行動できなかった。 " できるようにしたい。  
" に少しモカになれると思った。

○どんな課題や問題点に気づきましたか。  
食材を切るのに時間がかった。一手伝ってもらった。  
後かたづけをしっかりと。もっと人手が必要。  
たくさん作るのかたいはん 買い出しや食料の調達はどうするか。井戸? 山からたき木? 先生や改援隊の方に頼らず自分たちでやる。 山から山菜?

3. 地域防災訓練全体をとおして感じた成果と課題

成果：○協力する大切さと自分も人の役に立てることを知った。 課題：○本当に地震が起きたら、いかりできるか  
○協力して活動できた。 ○作るのに時間がかった。  
○中学生にもできることがあると思った。 ○改援隊の方に頼りすぎた。  
○自分にできるような仕事があった。 ○時間内にできた

4. 3を踏まえて、これから自分たちがすべきこと

◎自分たちがすべきこと ○お年よりの保護 ○中学生が中心になり助け合う  
○その場の状況を見て、自分にできることをせがむ  
○地域の人たちのけがや救助をする ○気付いて行動  
○近所の人と仲良くして信頼関係を深くする  
◎自分たちではできないので、関係機関にお願いしたいこと  
○避難所のバリアフリー化 ○トイレなど"ま"食べられる物  
○ " トイレ  
○長い間保存できる食物  
◎防災マップに盛り込んだ方がいいこと  
○井戸の場所 ○山菜がよくある所  
○避難場所  
○水が飲める所



各質問項目から分かること

- ・約3割が古い耐震基準で建てられており、約30年経過している。
- ・ほとんど大きな災害にあつたことがない。
- ・各質問項目について「よく分からない」と答えた人が7~24%おり、自分の家の状態をよく分かっていない人が多かった。

## 2. 議題の現状

- 将来、宮城県沖地震が起きる確率99.9%
- 耐震調査の普及率が低い
- 調査の質問に答えられない人が多い

## 3. 提案事項

### 1 住宅の耐震診断の実施

わかりやすい耐震診断のアンケートを作成し住民に配る。アンケートに答えてもらい、その結果からこの地域の各住居の耐震強度を調べる。このことにより耐震の工事を促すことになる。

### 2 詳細な耐震審査の実施

アンケートによって倒壊の危険ありと診断された家を詳細なアンケートを学校で配りそのデータを報告する。

### ○耐震診断の宣伝方法

- ・公民館の広報に載せてもらう

### ○配布の方法

- ・公民館にお願いして、町の広報と一緒に配布してもらう

### 結果

- ・町民が耐震に興味を持ってもらい、耐震診断をおこなうようになりその結果によって地震対策ができるようになる

このことから

# 町民の安全が守られる

テーマ

# 地域の防災意識を高めよう

メンバー 伊藤まこと 砂澤優佳里 遠藤舞 窪田未来 目黒有由美

## 1. 議題設定の理由

宮城県沖地震が高い確率で起こることが予想されるため、丸森東中学校では地域防災訓練を行いました。

そこでは、洪水や土砂崩れが起きた場合についての学習することができました。

しかし、参加することができなかった方が多かったので、私たちは避難経路を分かりやすく説明し、地域の方々に防災意識を高めてもらうために、この議案を提案しました。

## 2. 議題についての現状

- ・避難所までの経路を知らない方がいる。
- ・洪水や土砂崩れなどの起きやすい箇所が分からない。
- ・防災対策の仕方が分からない。

## 3. 提案事項

### 〈提案1〉「防災マップを作成しよう」

まず、私たちは避難所までの経路を知らない方のために小斎、金山の公民館から丸森東中学校までの避難経路と、小斎・金山の防災マップを作成しました。また、写真を貼り付け、注意書きを加えて、小学生にも見やすいように工夫しました。

### 〈提案2〉「防災マップを広めよう」

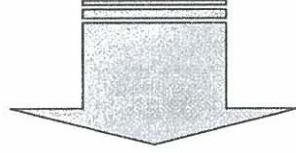
作った防災マップを地域の人に広く知ってもらうためにこのように考えました。

- 1、公民館や小学校に掲示してもらう。
- 2、回覧板にはさみ、各家庭に配布する。

# 結果

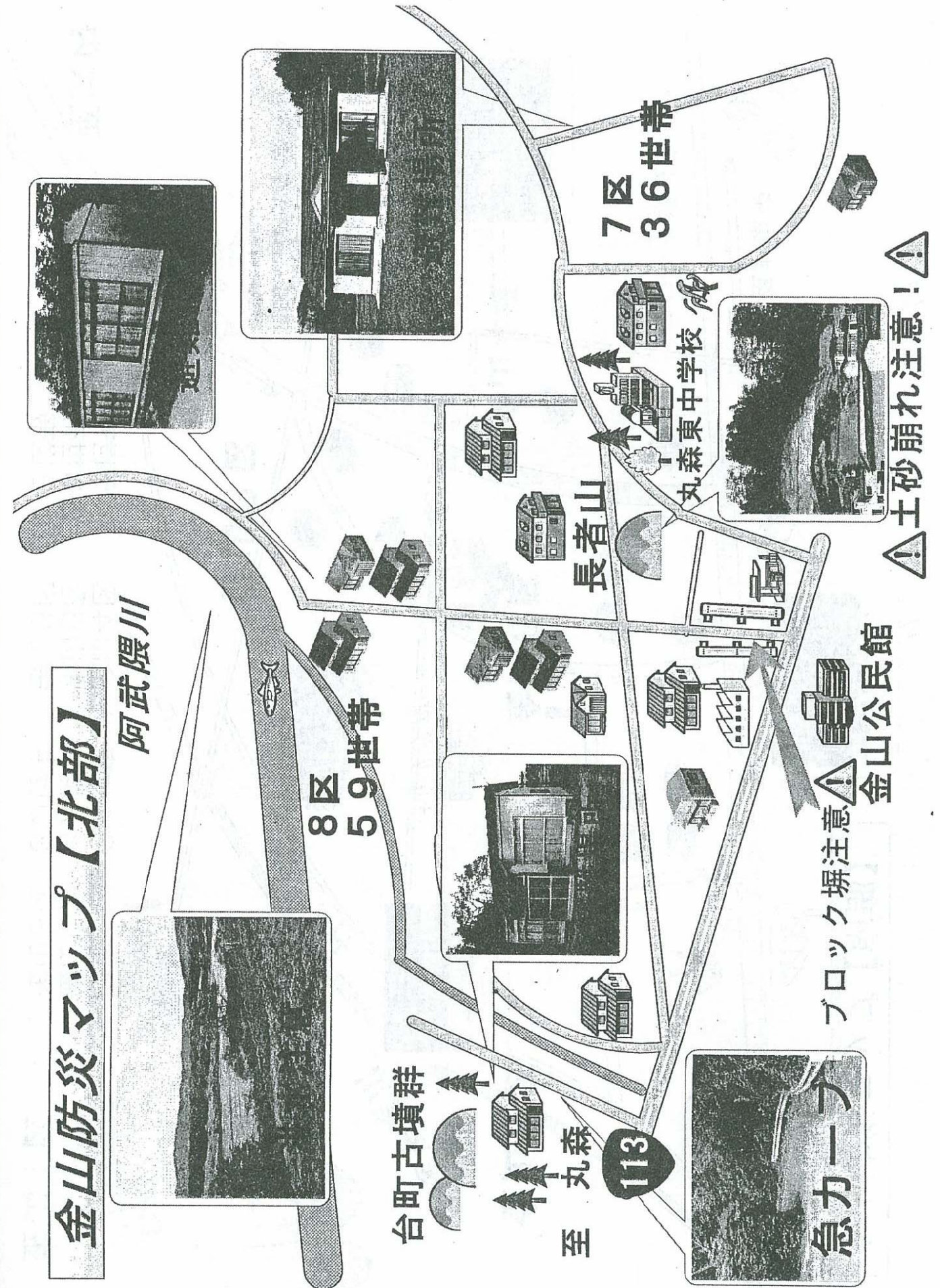
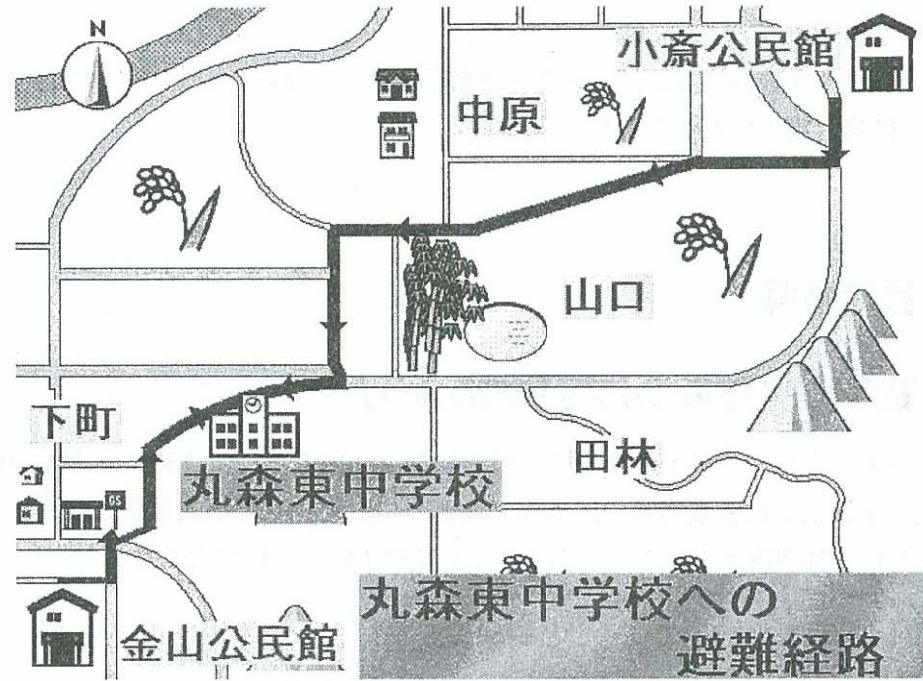
防災マップを作り、各家庭に配布することで・・・

- ・避難経路がよく分かる
- ・地震についての関心が高まる

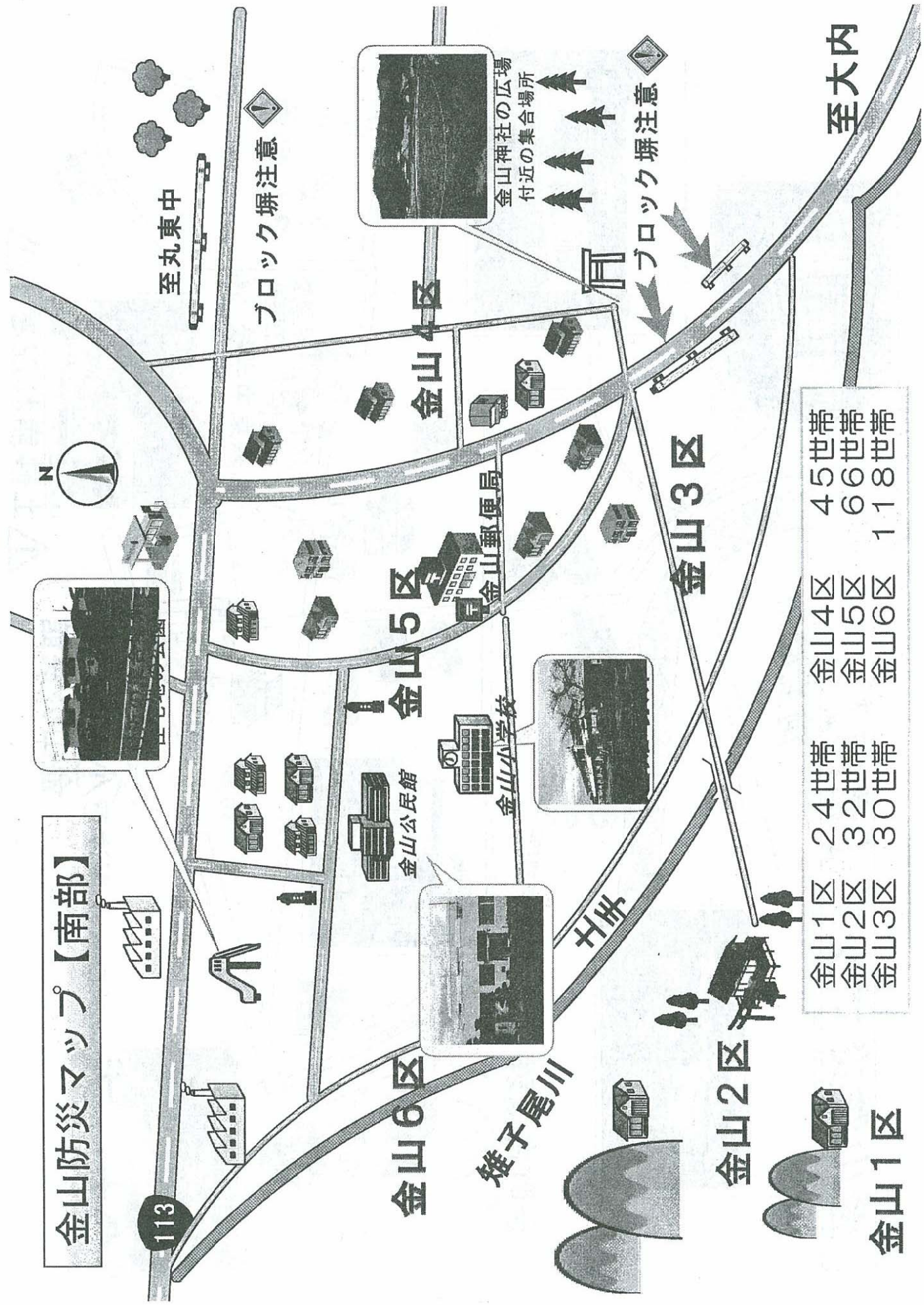


# 防災意識が高まる

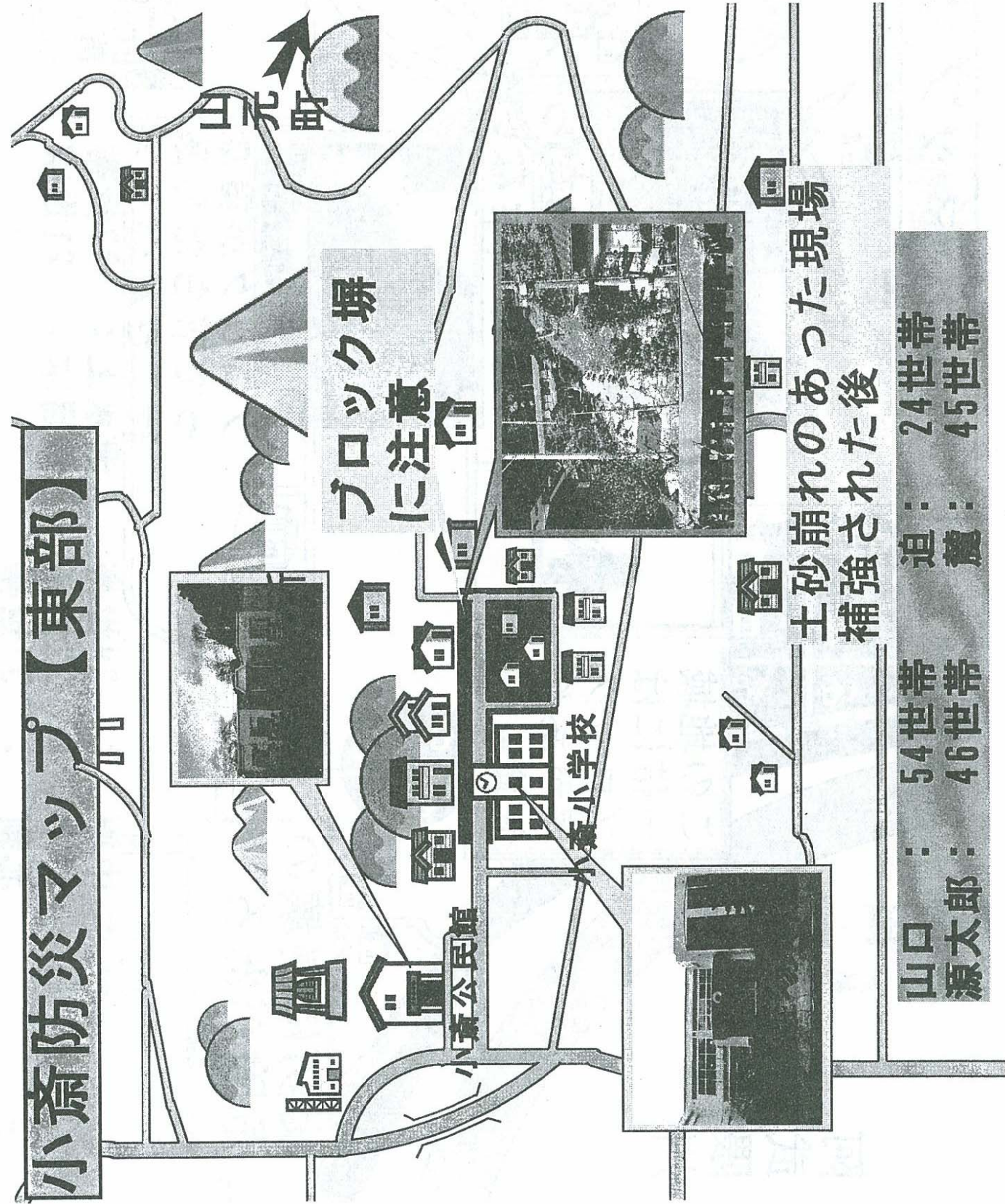
小斎・金山公民館からの丸森東中学校からの避難経路

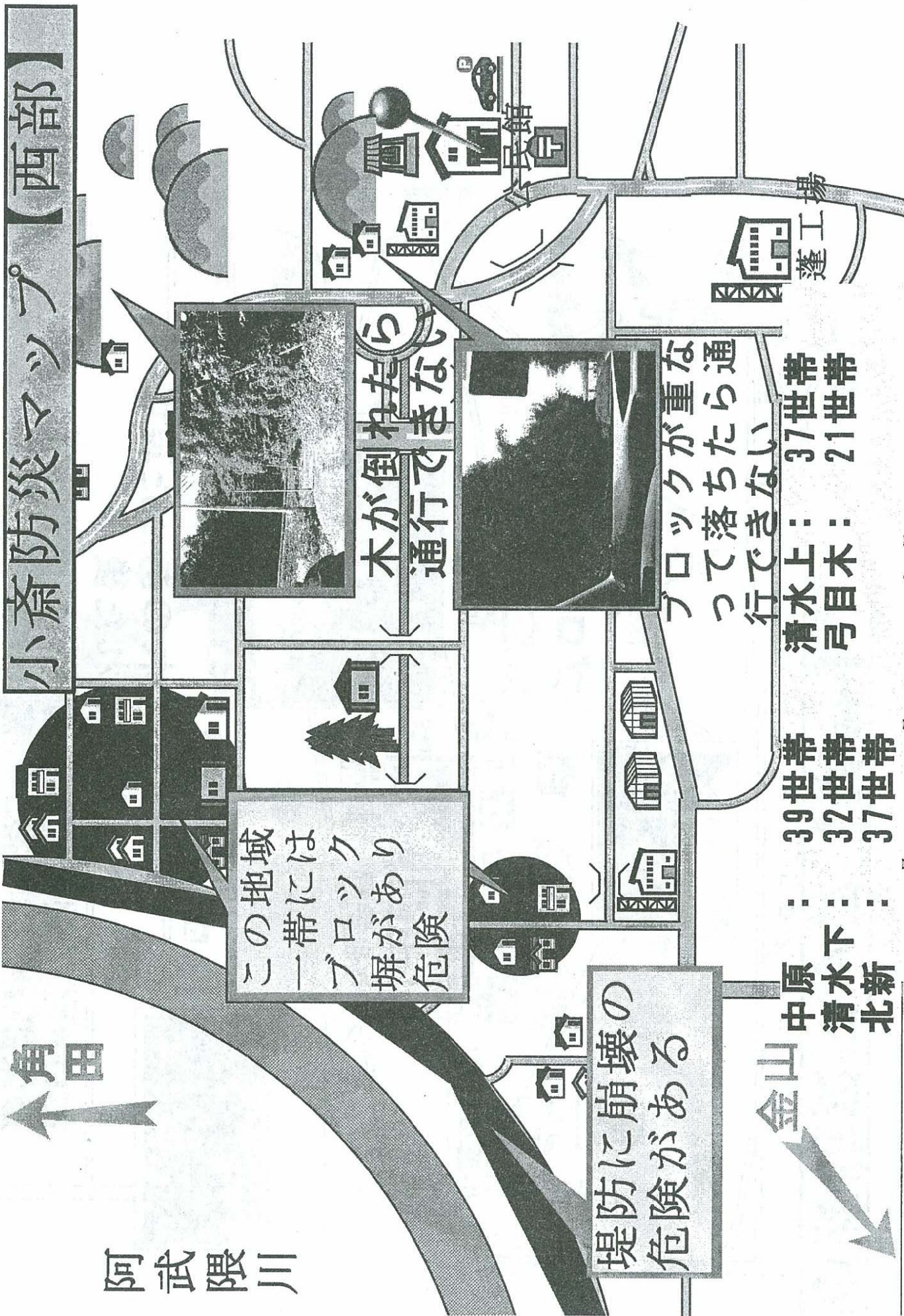


# 金山防災マップ【南部】

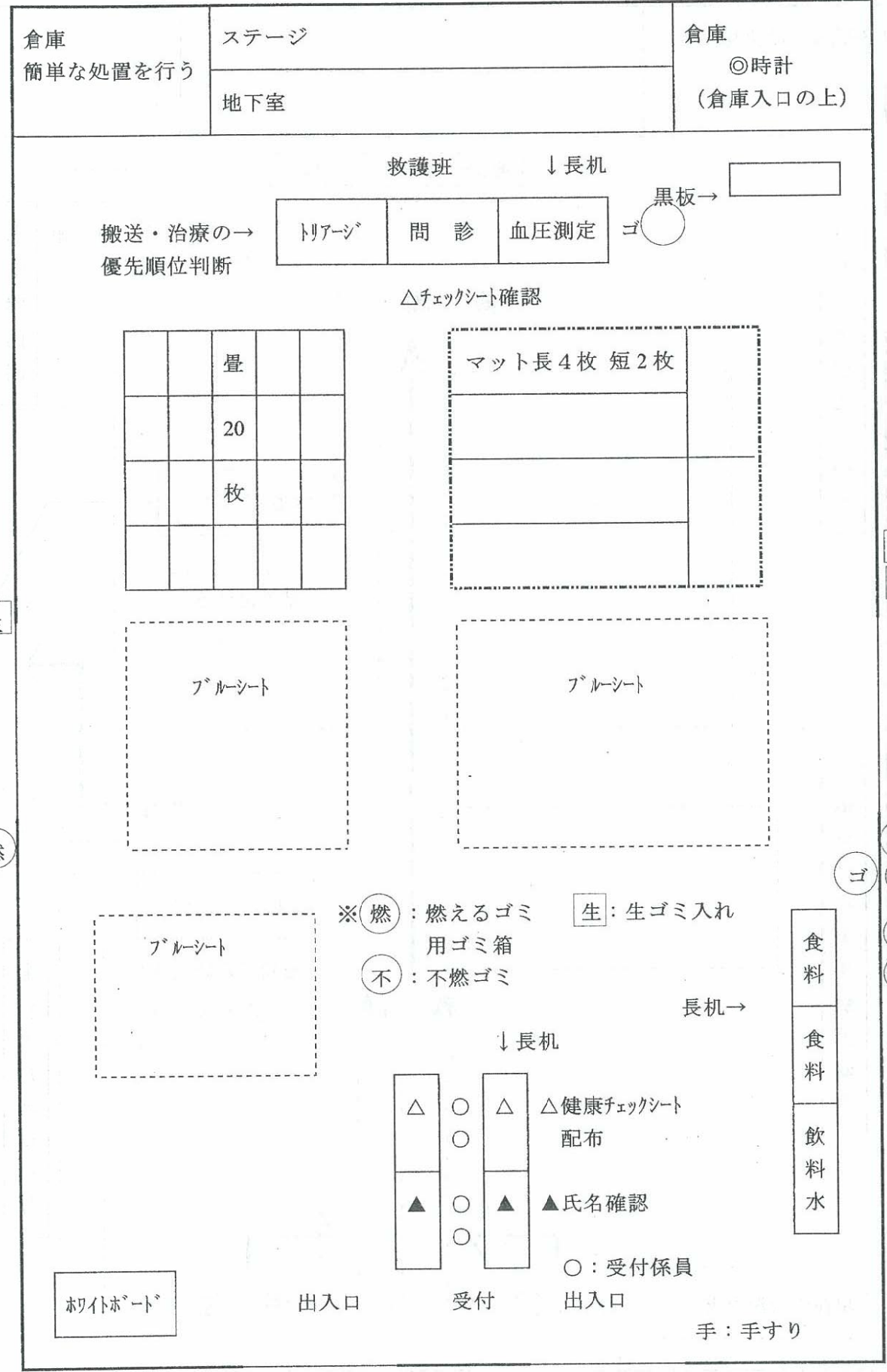


# 小斎防災マップ【東部】

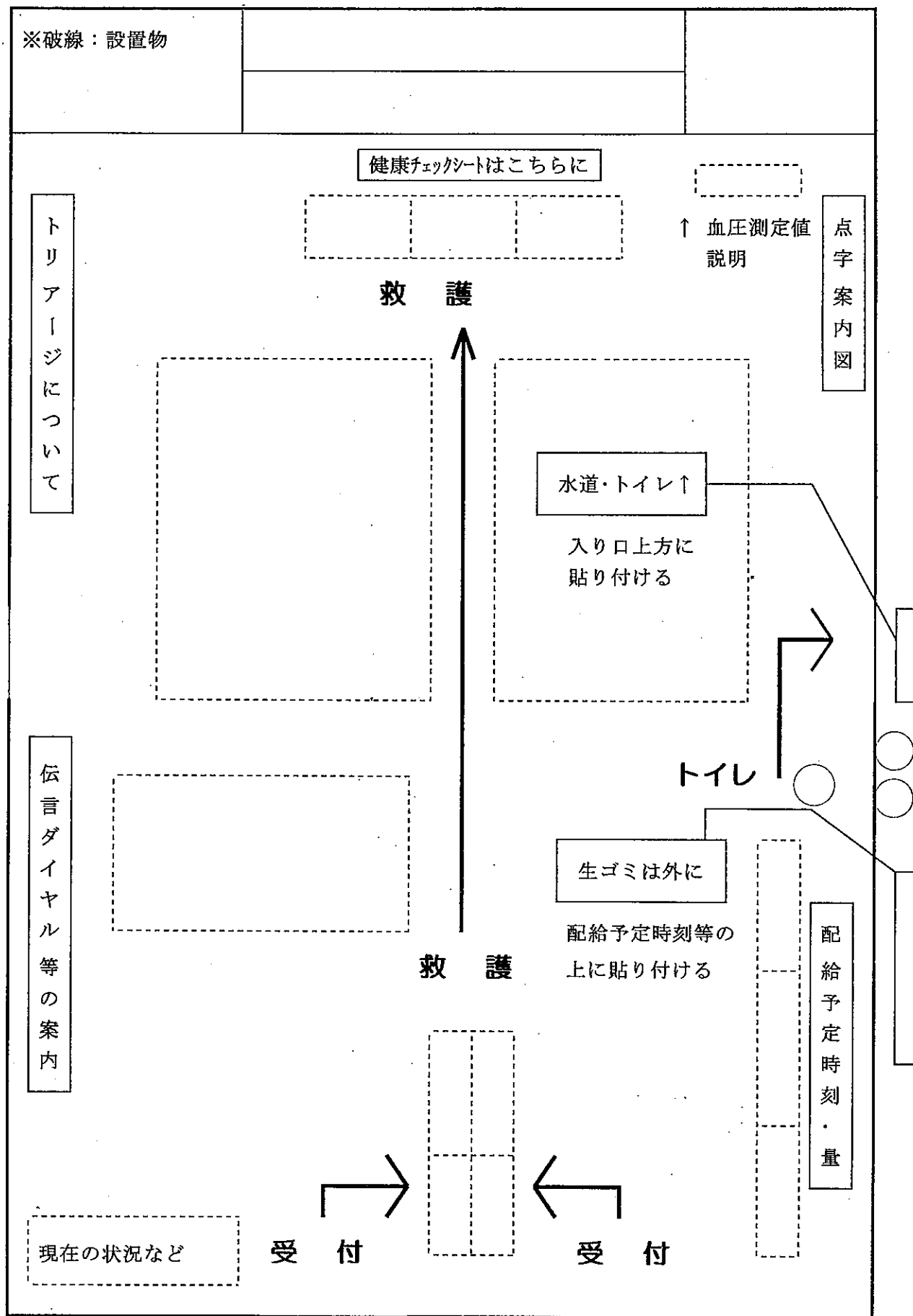




【配置図】



手



### 健康チェックシート

氏名	さん	男・女	才	血液型	型
住所	丸森町		連絡先	自宅・( ) 携帯	

あてはまるものを ○で囲んでください。

1	めまい がしますか。	はい ・ いいえ
2	吐き気 がしますか。	はい ・ いいえ
3	頭痛 がありますか。	はい ・ いいえ
4	腹痛 がありますか。	はい ・ いいえ
5	腰痛 がありますか。	はい ・ いいえ
6	腕の痛み がありますか。	はい ・ いいえ
7	足の痛み がありますか。	はい ・ いいえ
8	3～7で「はい」だった方、どのような痛みですか。具体的に記入してください。	
9	持病はお持ちですか。	はい ・ いいえ
10	8で「はい」だった方、どんな病気ですか。	(病名： )
11	どんな薬を服用されていますか。	( )
12	今、薬をお持ちですか。	はい ・ いいえ
13	体温	度 分
14	血圧	
15	その他 (心配なことなど)	

ご協力ありがとうございました。問診係か救護係にお渡しください。

【避難所設営用品管理表①】

資料 4

係	物 品 名	数 量	保 管 場 所
受付	避難者名簿 (今後作成)	20枚	カウンセリングルーム
	健康チェックシート (作成済み)	100枚	カウンセリングルーム
	鉛筆 後日配置	6本	カウンセリングルーム
	消しゴム 後日配置	6個	カウンセリングルーム
	メモ用紙 (B6) 後日配置	50枚	カウンセリングルーム
設営	体育用マット (長)	4枚	ステージ左倉庫
	体育用マット (短)	2枚	ステージ左倉庫
	柔道用畳	20枚	ステージ左倉庫
	ブルーシート (大)	3枚	東階段下倉庫
	長机	21台	体育館地下室・図書室
	移動式黒板・移動式白板	1台	体育館倉庫
	黒板消し	1個	体育館倉庫
	チョーク・マーカー	各3本	体育館倉庫
	セロハンテープ 後日配置	3巻	体育館倉庫
	ガムテープ 後日配置	3巻	体育館倉庫
	掲示用紙 (A3) 後日配置	50枚	体育館倉庫
	ラジオ	2台	職員室内印刷室
	乾電池 (未購入)	24個	
	ジェットヒーター、灯油	2基	体育館倉庫、倉庫 (400Lまで)
	スロープ	1カ所	町に要望
	手すり	2カ所	町に要望

スロープや手すりは、生徒が骨折した場合等にも必要です。

【避難所設営用品管理表②】

係	物 品 名	数 量	保 管 場 所	
救護	血圧計	1台	保健室	
	血圧測定値説明表 (今後作成予定)	1枚	保健室	
	汚れ拭き用タオル (今後回収予定)	100枚	カウンセリングルーム	
	救急セット	5箱	保健室	
	救急セ ット内 容	カットバン	20枚	保健室
		湿布	5枚	保健室
		包帯	1巻	保健室
		消毒薬	1本	保健室
		滅菌ガーゼ	5枚	保健室
		三角巾	2枚	保健室
		はさみ	1本	保健室
		テーピングテープ	3本	保健室
		トリアージ用色紙 (赤・黄・緑・白)	各50枚	カウンセリングルーム
		トリアージ用輪ゴム	1箱	カウンセリングルーム
表示	ゴミ (生・燃・不燃用) (製作中)	各2個	体育館地下に。段ボールで	
	通路表示用テープ (赤・青) (未購入)	各2本	職員室	
	場 所 表 示 ・ 製 作 中	受付・救護・問診・血圧	4枚	体育館地下室
		水道・トイレ	2枚	体育館地下室
		生ゴミ・燃えるゴミ・ゴミ	5枚	体育館地下室
		燃やせないゴミ	2枚	体育館地下室
		食料・飲料水配給	3枚	体育館地下室
	画紙	1箱	職員室	



【避難所設営用品管理表③】

係	物 品 名	数 量	保 管 場 所	
食料	水(2L入り)	4本	カウンセリングルーム	
	みそ汁缶詰	30個	カウンセリングルーム	
	乾パン	3缶	カウンセリングルーム	
	赤飯	1個	カウンセリングルーム	
	五目ご飯	10袋	カウンセリングルーム	
	わかめご飯(段ボール式) (未購入)	5箱		
	各種ゴミ袋	各10枚	カウンセリングルーム	
	表示用紙(A3)	15枚	カウンセリングルーム	
	紙皿 (未購入)	200枚	カウンセリングルーム	
	紙コップ (未購入)	200個	カウンセリングルーム	
	割り箸 (未購入)	200膳	カウンセリングルーム	

丸森東中学校の防災教育に基づく対策・運営等マニュアル

— 宮城県教育委員会「みやぎ防災教育基本指針」(平成21年2月)に基づく —

県教委では、学校における防災教育の方向性を示し、発達段階に応じた系統的な防災教育が行われるよう「みやぎ防災教育基本指針」を作成した。

そこで、本校ではこの指針に基づき、以下にこの指針の主な内容と本校独自の防災教育対策・運営等マニュアルを示す。

1 防災教育の意義と目的

「みやぎ新時代教育ビジョン」において、本県の学校教育が目指すもの

- 主体的に考え生きる人づくり
- 人々と支え合い生きる人づくり
- 地球社会を生きる人づくり

これらを掲げ、生きる力をはぐくむ基礎・基本の定着と個性を生かす教育を推進する。

「震災対策推進条例」では、

学校における震災対策に関する教育の充実に努めることが規定され、学校教育における防災教育の充実に求めている。

これらに基づき、「防災教育の目的」を

生涯にわたって地震災害と向き合い、ともに生きていく力を持った人づくり

2 防災教育の目標

本県の防災教育が目標とする「防災対応能力」とは、

児童生徒が自らの身を守り、家庭、地域の防災や災害時の対応について理解し、主体的に行動できる力を身に付けようとするもの

地震災害と向き合い、ともに生きていく力 = 「防災対応能力」(防災+災害対応能力)

児童生徒が自らの安全を守るだけでなく、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立ち、ボランティア活動を通じて他人を思いやる心や社会に奉仕する精神を培うことが期待できる。

防災対応能力を以下の4つの能力とし、それにより「生きる力」を涵養し、能動的・主体的に防災に取り組むことができる人づくりを目指して行うもの。

①「自らの身を守り、乗り切る能力」

災害時に自らの身を守り、被災後の生活を乗り切る力

②「知識を備え、行動する能力」

地域や社会の特性、防災に関する知識を活用し、防災・減災のために事前に備え、行動する力

③「地域の安全に貢献する能力」

地域の歴史や自然環境、防災体制や災害の発生メカニズム等について理解し、地域の一員として防災・減災活動に貢献する力

④「安全な社会に立て直す能力」

被災時には、地域のために活動するとともに、互いに助け合い、協力して安全な社会に立て直す力

3 防災教育基本計画

(1) 防災教育の目標設定

目標は、「知識・理解」「技能」「公共・社会性等」のそれぞれの観点で示し、防災対応能力の4つの能力につながるものである。

知識・理解	小 学 校	<b>地域の防災体制</b> ○ 地域や行政の災害時の対応や情報の伝達方法について理解する（緊急地震速報、災害時伝言ダイヤルの活用方法等） ○ 地域内の危険箇所を知ると共に、日常生活での様々な場面における危険について理解する（屋内外、車中、地下、ビルなどでの対応方法） <b>地震津波メカニズムの基礎</b> ○ 地震災害の基本的な特徴や様々な危険について理解する（発生確率、揺れの種類と被害、関連する災害等） ○ 地域の避難所や家族との連絡方法について理解する <b>危険物の確認</b> ○ 発生時の危険な場所（屋内外）を認知すると共に、地域の避難所や避難場所を知る
	中 学 校 ・ 高 校	<b>被災時の対応</b> ○ 心肺蘇生等の応急処置の方法を理解する ○ 緊急時の生活に必要な知識（簡易調理、仮設トイレ、けが人の運搬等）の習得 <b>災害への備え</b> ○ 建物の耐震性やその補強の方法について理解する ○ 家の中での被害を防止軽減するための方法について理解する <b>地震発生メカニズム等</b> ○ 地震発生のメカニズムや地質の構造について理解する
技 能	小 学 校	<b>自己安全の確保（一般化）</b> ○ 日常生活の様々な場面において、自らの判断で危険を回避すると共に、二次災害を防ぐことができる ○ 災害時には、必要な事柄について正しく情報伝達をすることができる ○ 二次災害でのけがを防止すると共に、簡単な応急手当ができる <b>危険回避・避難行動（自主判断）</b> ○ 自己の判断で危険を回避することができる ○ 校外での発生時には、地域の避難所等に避難することができる <b>初期避難行動（教師主導）</b> ○ 発生時には、教師や保護者の指示に従い適切に行動することができる
	中 ・ 高	<b>生活環境の安全化</b> ○ 応急処置や負傷者の運搬を協力して行うことができる（止血法、包帯法、人工呼吸法、AEDの使い方） ○ 避難生活を支える簡易施設や設備を作り出すことができる（仮設テント設営、簡易調理器具や仮設トイレの作成）
公共・社会性等	小 学 校	<b>リーダー性の育成</b> ○ 自己の安全だけでなく、他の人々の安全にも配慮することができる（災害時には、下級生の安全に気を配り、面倒をみることができる） ○ 社会に奉仕する喜びや自他の生命尊重の大切さを理解する <b>協調性の育成</b> ○ 基本的な生活習慣を身に付け、生命を大切にすることをもち、他と協調することができる

地域防災への参加

中・高

- 地域の防災訓練等に参加し、自らが実施可能な災害時の活動について理解を深める
- 地域の防災体制について理解すると共に、災害時にはボランティアとして活動に参加する

(2) 防災教育を指導に当たって

① 防災教育の指導内容

学習指導要領・教科書等に示されている災害安全の内容、密接に関連する内容及び災害時に役立つものとなりうる内容などに分けて、各教科、道徳、特別活動等、学校教育活動全体における防災教育の指導内容を整理する。  
また、地域の特性や環境、行政機関との連携状況なども、その要素として考慮しなければならない。

② 指導計画の作成

学校教育活動全体を通じて防災教育を行うため、各教科、道徳、特別活動等の指導内容、指導時数等について整理し、「防災教育に関する指導計画」を作成する。  
その際、平成21年4月1日施行の「学校保健安全法」に基づき、学校安全の各領域を網羅し、各領域との関連を図ることが重要である。

学校保健安全法（平成21年4月1日施行）

第27条

学校においては、児童生徒等の安全の確保を図るため、当該学校の施設及び設備の安全点検、児童生徒等に対する通学を含めた学校生活その他の日常生活における安全に関する指導、職員の研修その他学校における安全に関する事項について計画を策定し、これを実施しなければならない。

③ 副読本、視聴覚教材等の作成・活用

児童生徒等が興味・関心をもって積極的に学習に取り組めるよう、文科省や消防機関等で作成した指導資料や副読本、視聴覚教材等を活用する。その際、パソコンを活用するなど指導方法の工夫にも努める。

④ 地域・行政と一体化した地域ぐるみの防災教育の推進

学校保健安全法・第30条では、児童生徒等の安全の確保を図るため、地域の関係機関との連携を図るよう示している。

「開かれた学校づくり」の観点から、PTAはもちろんのこと、地域住民との交流や連携の機会を日常的に作り出し、非常時の場合も地域との絆が生かされるような基盤づくりを進めることが大切である。

さらに、災害ボランティアに関する体験学習の場や地域のお年寄りから過去の災害の話聞く機会の設定、避難訓練の実施等にあたっては、保護者や地域の防災関係機関・団体等の参加を得て「防災委員会」を校内に設置するなど、地域の防災機関の協力を得て、計画の作成及び実践が円滑に行われるようにすることが重要である。

⑤ 防災教育の評価と改善

指導計画（目標、指導内容、指導時間数）、指導方法、指導の成果及び家庭、地域社

会との連携について評価し、改善しながら指導を進める。  
 その際、地域の実態等に応じた学校の防災教育を進めるため、地域防災計画との関連に十分配慮する必要がある。

(3) 中学校の指導内容

発達段階に応じた目標	防災対応能力
<b>地震津波発生メカニズムの理解</b> ○ 地震や津波発生メカニズムや地質の構造について理解する	①
<b>災害への備え</b> ○ 建物の耐震性やその補強の方法について理解する ○ 家の中での被害を防止・軽減するための方法について理解する	① ②
<b>被災時の対応</b> ○ 心肺蘇生等の応急処置の方法を理解する ○ 緊急時の生活に必要な知識（簡易調理、仮設トイレ、けが人の運搬等）の習得	② ④
<b>生活環境の安全化</b> ○ 応急処置や負傷者の運搬を協力して行うことができる（止血法、包帯法、人工呼吸法、AEDの使い方） ○ 避難生活を支える簡易施設や設備を作り出すことができる（仮設テント設営、簡易調理器具や仮設トイレの作成）	② ③ ④
<b>地域防災への参加</b> ○ 地域の防災訓練等に参加し、自らが実施可能な災害時の活動について理解を深める ○ 地域の防災体制について理解すると共に、災害時にはボランティアとして活動に参加する	② ③ ④

<各教科等における主な関連内容>

教科等	学習指導要領の内容	取扱いの一例
理科 ・第2分野	(2)大地の成り立ちと変化 ア 火山と地震	地震の発生メカニズムや地震が発生したときの地面の揺れ方を理解する。住んでいる町の土地の成り立ちや地盤の地質について理解する。
保健体育科	(3)傷害の防止 ウ 自然災害による傷害と災害への備え、安全な避難 エ 応急手当	災害の種類や二次災害について理解するとともに、日頃からの備えや発生時の行動、情報収集の方法について理解できるようにする。
技術	A 材料と加工に関する技術	災害時でも困らないよう、日常食の調理や簡単な木製品の製作ができるようにする。
家庭	B 食生活と自立 C 衣生活・住生活と自立	
道徳	3-(1)自他の生命尊重 4-(8)社会への奉仕等	小学校での指導を基盤に、自他の生命尊重や社会への奉仕、公共の福祉と社会の発展に尽くすように努める心を育てる。

特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動 適応と成長及び健康安全</li> <li>・学校行事 健康安全体育的行事、遠足・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事</li> <li>・生徒会活動</li> </ul>	<p>学級活動において、災害からの安全などに関する題材を取り上げ、生徒自らの心身の健康状態についての理解と関心を深め、望ましい態度や習慣の形成を図る。</p> <p>健康・安全に関する行事の事後指導等において、災害から自他の安全を守ることの意義などについて指導する。</p> <p>集団宿泊的行事では、自然体験活動等を通し、自他との協力や精神的なたくまさを培うと共に、野外での生活体験から災害時の生活力を育成する。また、勤労生産・奉仕的行事や生徒会活動においては、地域の防災訓練等で、ボランティア体験をする等して、災害時に必要な知識やスキルを身に付けるようにする。</p>
------	--	--

4 丸東中の対策運営マニュアル

災害発生時の体制整備については、「宮城県教育委員会・災害対策マニュアル（平成18年3月策定）」「宮城県教育委員会・災害対策基本要領（平成18年2月24日）」「宮城県教育委員会・災害対策基本要領施行細則（平成18年2月24日）」に基づき整備推進を図るが、市町村立学校においては、各市町村教育委員会が定める同様のマニュアルや要領に沿って整備を行うこととする。

なお、学校においては、平成21年4月1日施行の学校保健安全法・第29条「危険等発生時対処要領の作成等」及び第30条「地域の関係機関との連携」、第10条「地域の医療機関等との連携」に基づき、これらのマニュアルを作成整備することが規定されている。

ここでは、「宮城県教育委員会・災害対策マニュアル」に基づき、一般的な体制整備について例示を示す。

(1) 震災応急対策マニュアル

想定震度：所属所、所在市区町村において震度6強

想定時刻：所属所長の正規の勤務時間中（学校においては授業中）の時刻

1	地震発生 約15秒の縦揺れ 約1分の横揺れ	宮城県沖を震源とする場合、 仙台市内では15秒間程度の初期微動（縦揺れ）の後、 約60秒間の主要動（前半の約30秒間が最も強い横揺れ） 主要動の後半約30秒間は前半より弱くなる
2	児童生徒等の安全確保 火の始末 出入口の開放 負傷者の確認 初期消火	①火気の使用中であれば、真っ先に火気の始末をする。 ②普通教室で授業中であれば、生徒等を壁や窓の反対側に頭を向けて、机の下にもぐらせ、机の脚をしっかりと持たせる。 ③出入口のドアを開け、脱出口を確保する。 ④職員は揺れが続く間、生徒等を安心させるような声をかけ続ける。「あと60秒で地震は終わる」「あと30秒」「さっきの揺れがピークで、あとは弱くなっていく」など・・・ ⑤地震が収まり次第、負傷者の確認を行う。 ⑥火災が発生した場合は、初期消火を行う。
3	安全点検 避難経路の確認 日の元の確認	①担当・教職員は、避難経路の安全を確認する。 ②担当・教職員は、ガス元栓の閉鎖や暖房設備等の消火をすべて確認する。 ③担当・教職員は、理科室・薬品や石油類等の危険物の状態を確認する。 ④直ちに応急手当の必要な負傷者には、養護教諭等が応急手当を行う。
4	避難 避難前の点呼 整然とした避難実施 非常持出 避難場所での点呼 二次避難	①逃げ遅れる者が無いう、避難前に人員を確認する。 ②学校長の統率の下、整然かつ速やかに避難する。 ③自力で避難できない者がいるときは、担当・教職員が介助して避難する。 ④担当・教職員は、非常持出袋を持ち出して避難する。 ⑤避難完了後、人員を確認し、学校長に報告する。 （訓練時にここまでの所要時間を計測しておく） ⑥担当・教職員は、ラジオ等により情報収集に努める。 ⑦避難場所の安全確保が危ぶまれる場合、二次避難する。
5	避難後の安全確保	養護教諭等は、負傷者のトリアージ（病気やけがの緊急度や重症度を判定して治療などを行う優先順位を決めること）

	トリアージ 応急手当 被害状況等の調査	を行い、最優先治療群から順に応急手当を行う。 ①救急車により病院への搬送が必要な者は、直ちに緊急通報を行う。（救急車で搬送の可能性がない場合は、ドクターヘリ等をアマチュア無線等により要請する。） ②児童生徒等のそばに付き、対話等によって不安を和らげる。 ③担当・教職員は、校舎内に逃げ遅れた生徒等がいらないかを捜索する。 ④担当・教職員は、校舎等の被害状況を調査する。
6	教職員の担当を再確認 & 学校長の分担指示 態勢の整備 状況判断 被害報告	①学校長は、災害に対応するための教職員の役割分担を再確認し、教職員に徹底する。 ②行方不明者がいるときは、学校長の指示により捜索する。 ③学校長は、マスコミ情報や被害状況調査の結果等により、避難の継続や解除、立入禁止場所の設定、終業時間繰り上げ等の決定を行う。 ④担当・教職員は、危険箇所の応急処置に当たる。 ⑤担当・教職員は、教育委員会に被害状況等の報告を行う。
7	保護者への連絡等 緊急連絡 生徒等の保護	①伝言ダイヤル、その他の方法で授業打ち切りや臨時休業等の情報を保護者に伝達する。 ②帰宅の際の安全が確保できない生徒等を保護するとともに、保護者への連絡、引率・送迎等の対応を行う。 （電話不通や停電等による連絡不能の際も、事前に想定・検討を行う。）
8	復旧に向けた方針決定 復旧計画の検討・立案 応援の要請	①学校長は、翌日以降の臨時休業、応急教育の必要性、その他学校再開に向けた復旧作業等の方法を検討し、方針を決定する。 ②方針決定に当たっては、生徒等の心のケアに十分配慮する。 ③必要に応じ、教育長その他防災関係機関等に指示を仰ぎ、応援等を要請する。
9	災害復旧対策へ 心のケア 復旧工事 被害者の対策 記録	①生徒等の精神的・身体的状態を継続観察し、回復を支援する。 ②学校長の統率の下、危険箇所以外の後片付けを行う。 ③災害復旧経費の見積もりを算定し、予算措置、発注等の手続きを行う。 ④学用品の給与、修学金の減免や貸付等の諸手続きを検討する。 ⑤可能な範囲で被災住民の支援を行う。 ⑥復旧までの過程や課題・問題点、反省等を記録し、今後に備えた参考資料にする。

(2) 避難所運営マニュアル

1	地震発生（避難開始）	<p>①地震の揺れがおさまり次第、生徒等は教職員の指示により、校舎から離れた校庭・南側に避難・集合する。</p> <p>②生徒等の点呼・確認後、行方不明者が存在する場合には、教職員で分担して捜索を開始する。</p> <p>③全生徒・教職員等が校庭・避難が完了後、教職員は分担して校舎・体育館等の被害状況を調査し、その結果に基づいて避難所の体育館に避難を開始する。</p> <p>④防災担当・教職員は、学校支援組織「改援隊」による対策本部の設置準備を開始する。</p> <p>⑤ラジオ等により、県内等の災害状況の情報収集を開始する。</p>
2	避難所の設置	<p>①教職員と学校支援組織「改援隊」役員等からなる対策本部は、避難所運営体制を組織する。</p> <p>②対策本部は、避難所運営組織が機能するまで避難所運営の支援・指示を行う。</p> <p>③対策本部は、校長室に設置する。</p>
3	一般避難者への施設開放・区域の明示	<p>①管理上必要な校長室、職員室、保健室等は開放しない。</p> <p>②主な避難所として体育館を開放し、避難生活に適さない特別教室等はできるだけ開放しない。</p> <p>③避難者数に応じ、体育館の許容人数を超えた場合に、予め被害状況を把握・点検した上で、優先区域順に開放する。</p> <p>④改援隊の担当者は、開放区域の管理と運営等を行う。</p> <p>⑤本隊担当部長は、対策本部と緊密に情報交換して連携し、指示・連絡を着実に実施する。</p>
4	避難者の誘導	<p>①担当者（教職員、隊員、生徒等）の隊員と生徒等は、高齢者、障害者、妊婦、乳幼児等に配慮し、整然と誘導する。</p> <p>②担当者（教職員、隊員、生徒等）は、避難者に対し、開放区域以外に入室しないこと等、避難所使用のマナーと一般的注意を行う。</p> <p>③担当者は避難者の健康やけが等の状況把握に努め、必要に応じて応急処置を行うため保健室に誘導する。</p>
5	初期のライフライン確保	<p>&lt;し尿処理&gt;</p> <p>・トイレの水が使用できない場合、プールの水を利用する。</p> <p>&lt;当面の物資の配達と配給&gt;</p> <p>・対策本部は、必要となる救援物資の供給を町等に要請する。</p> <p>・担当者（教職員、隊員、生徒等）は、対策本部の支持を受け、配給トラブルの注意を行い、飲料水や軽食等の配給を行う。</p> <p>・配給の際は、災害弱者（高齢者、障害者等）と健康状況を把握し、配給の優先順を配慮する。</p> <p>&lt;仮設テントの設営&gt;</p> <p>・設営担当者は対策本部の支持により、緊急車両や防災ヘリ等の進入等を妨げない場所に設営する。</p> <p>&lt;避難所の電気、水道、ガス等&gt;</p> <p>・対策本部は、電気、水道の復旧状況に応じて、その代替</p>

		<p>措置（近隣の井戸水、自家発電機器等）を検討し、運搬・搬入等の依頼・作業を決定する。</p> <p>・ガスについては、本校プロパンと配管の破損状況を確認や修理等を行い、調理室等での炊き出し、お湯の準備等を行う。</p> <p>・夜間の照明については、ろうそくその他の照明を検討・準備を行う。</p> <p>&lt;ごみ処理&gt;</p> <p>・夏季は細菌が発生しやすいため、特に衛生面に注意する。</p> <p>・燃えるごみと燃えないごみ等の分類を徹底させる。</p> <p>・ごみ集積所の担当者は、使用者に注意を喚起すると共に、集積所の管理と整理を行う。</p>
6	避難所の運営	<p>①担当者（教職員、改援隊、生徒等）は、避難所での生活ルールについて説明を徹底し、避難者間等のトラブルや迷惑行為（喫煙、飲酒など）を回避する。</p> <p>②担当者は、避難者の声に耳を傾け、要請や協力、願いに迅速に応じる。</p> <p>③担当者は、県内や地域の災害状況等について、避難者に情報提供を行う。</p> <p>④担当者は、避難者からの要請により、毛布等の必要物資について対策本部に伝え、救援物資の確保を図る。</p> <p>⑤担当者は、その他、避難所運営において検討・配慮すること等が生じた際は、対策本部に迅速に伝え、指示を仰ぐとともに運営を円滑に行うよう尽力する。</p>
7	炊き出しの実施	<p>①担当者（教職員、隊員、生徒等）は、家庭室その他の場所において、施設・設備の点検等を行った上で、炊き出しを行う。</p> <p>②担当者は、事前に実施する訓練に基づいて、組織的に協力的に炊き出しの準備・実施を行う。</p> <p>③担当者は、備蓄食材の確認と必要であれば近隣住民からの食材を確保すると共に、献立を検討する。</p> <p>④避難者への炊き出し配給については、対策本部の指示のもと、避難所運営の担当者と連携して行う。</p> <p>⑥水道の使用有無等の災害状況と季節に応じて、衛生管理を可能な限り徹底する。</p>
8	避難者の名簿作成	<p>担当者（教職員、隊員、生徒等）は、避難所開設とともに受付を設営し、避難者の名簿を作成する。</p> <p>①避難者の把握と外部からの問い合わせ（安否確認）対応を行う。</p> <p>②名簿には、氏名、性別、年齢、住所などの欄を設ける。</p> <p>③名簿は逐次に対策本部にも提供する。</p> <p>④避難者が救急搬送等により病院その他、他地域の親類等に移動する場合は、確実に名簿に記載し記録する。</p> <p>⑤名簿により避難者数が増加し、避難所の許容を超える場合が生じた際には、対策本部は町等に連絡して対応策を検討する。</p>

9	避難者の離散家族等との連絡や、災害状況の情報提供	①固定電話、携帯電話の復旧が困難な場合、アマチュア無線等により、外部や町・県等との災害状況の情報発信を行う。 ②ラジオ等により、可能な限りマスメディアを利用して情報収集を行い、避難者等にも情報提供する。 ③避難者等の離散家族について、伝言ダイヤル、無線等による可能な手段により、安否や無事な状況を発信できるように避難者支援を行う。 ④避難者の離散家族への心配等、心の安定を図るため情報収集を町・県等に依頼・確認を実施する。 ⑤避難者の不安解消を図る情報収集と提供を随時、定期的に避難所に掲示等により行う。
10	避難者の相談等の対応	避難者への対応は、冷静さを保つよう心掛け、次の点に注意する。 ①孤立感を持たせない。 ②無理に励まさない。 ③具体的に、建設的に、会話等により対応する。 ④心の傷に大小はない。 ⑤あせらず、無理をせずに、要請等に応ずる。 ⑥避難者の悩みの聞き手に徹する。

(3) 心のケア対応マニュアル【諸症状と対応策】

	症 状	対 応 策
退行反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>親から離れない。親の気を引こうとして兄弟で争う。</li> <li>幼い頃にやっていた癖、行動、態度などを再びやり始める。</li> <li>怖い夢などを見て、夜中に泣き出す。</li> <li>自分で考えての行動ができにくくなる。</li> <li>学業成績が低下する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの甘えに対し、受容的態度で臨む。</li> <li>子どもの側にいて安心感を与える。</li> <li>大人の方から積極的にスキンシップを図る。</li> <li>子どもの要求は平常心に戻るまで、できるだけ受容する。</li> <li>勉強、手伝い等が一時的におろそかになることを大目に見る。</li> <li>子どもを責めないで保障してやり、安心感を持たせる。</li> </ul>
生理的反応	<ul style="list-style-type: none"> <li>食欲不振</li> <li>嘔吐、吐き気</li> <li>腹痛、頭痛</li> <li>摂食障害（拒食、過食など）</li> <li>じんましんが出る</li> <li>不眠、不眠傾向</li> <li>喘息様の咳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人や仲間と遊ぶ機会を与えたり、スポーツや社会活動に積極的に参加するように励ます。</li> <li>身体的にいろいろな反応が見られる場合は、医療機関で受診し、手当てなどの指示を受ける。</li> <li>摂食障害の場合は、専門医療機関で受診することが望ましい。</li> <li>身体症状にばかり目が向かないように、周囲もあまり心配し過ぎない。</li> <li>身体的に大きな異常が見られない場合は、日常生活リズムを規則正しく整える。</li> <li>生活の中で、過剰な刺激を与えない。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>集中力に欠ける</li> <li>イライラ、反抗的、攻撃的行動</li> <li>親に甘えることをしない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの話にしっかり耳を傾ける。</li> <li>「頑張れ」などの励ましや激励はしない</li> <li>甘えられる雰囲気をつくる。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>音や揺れに敏感</li> <li>円形脱毛、抜け毛、チックなど</li> <li>反社会的行動（喫煙・薬物乱用、盗みなど）</li> <li>孤立、家族や仲間からの引きこもり</li> <li>喪失したものを過度に悲しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちを共有し、叱責をしない。</li> <li>行動で、躾や勉強ができなくなったことは、大目に見ていく。</li> <li>反社会的行動に走りやすいので、行動に対しては具体的に注意する。</li> <li>鬱状態で自殺をほめかす場合もあるが、この場合は激励や叱責は避ける。また、躁状態が見受けられるときは、直ちに専門家に相談することが重要。</li> <li>友達と遊んだり、話し合うことを勧める。</li> </ul>
※ 心のケアに当たっては、関係機関（学校医、カウンセラー等）との連携を図り、対応に当たることが効果的である。その際には、保護者との連携も密にし、児童生徒の些細な行動の変化を見逃さないよう体制を作ることが大切である。 ※ 震災応急対策マニュアルには、マスコミ対応担当者を設け、心のケアが必要な児童生徒に対しては、取材制限等の措置を取ることも必要である。	

5 地震防災管理

(1) 施設設備の安全点検

災害発生時の施設設備の被害を軽減し、生徒等の安全を確保するためには、事前の対策が重要である。

現在行われている安全点検は、施設設備の不備や不調、欠損等を中心に行われているが、防災上の観点から次のチェック項目を付け加え、点検を実施するとともに、改善につなげることが有効である。

<ol style="list-style-type: none"> <li>消火器等の有効期限を有する防災又は消防用の器具の更新状況</li> <li>火災報知機、防火扉、非常放送設備、非常灯（懐中電灯を含む）等の防災又は消防用の設備及び器具の動作状況及び管理状況</li> <li>避難ばしご等の避難用具の管理状況</li> <li>防災設備等の表示状況</li> <li>避難経路における障害物等の設置状況</li> <li>危険物の管理状況</li> <li>設備、備品、器具等の転倒及び落下防止等の措置状況</li> <li>建物、のり面等における亀裂、変形等の状況</li> <li>遊具、看板、フェンス等の工作物における腐食等の状況</li> <li>その他学校長が必要と認めたものの管理状況</li> </ol> <p style="text-align: right;">* 官城県教育委員会・災害対策基本要領施行細則 第13</p>
--

(2) 生徒等の安全確保方策【発生時間帯による対応】

災害が発生する時間帯によっては様々な場所や場面が想定される。そのうち、特にポイントとなるのは次のものである。

① 在校時の場合

(ア) 校内放送等による指示

災害が発生した場合、生徒等の安全を確保するためには、パニック状態に陥ることなく状況に応じて冷静に対応する必要がある。

このため、災害発生後速やかに教頭等が校内放送によって冷静な対応を呼びかけるとともに、周囲の状況等、情報伝達を適宜行う。

なお、停電等により校内放送が使用できない場合には、ハンドマイク等により教職員が分担して速やかに対応を図る必要がある。

(イ) 各教科等の授業中

比較的教職員が生徒等を把握しやすい状況にあることから、生徒等の安全を確保するため、普通教室や特別教室等在室している教室の状況に応じ、地震発生と同時に机の下へ待避させるなど、教職員が的確な指示を行うものとする。

(ウ) 休憩時間中

生徒等が校舎の内外にいる可能性が高く、生徒等も開放感から自由な行動をとりやすいことから、教科等の授業中の場合に比べて指示や所在の把握が難しい時間帯であることを踏まえた対応が必要である。

(エ) 部活動等の自発的活動中

休憩時間中の場合と同様に、生徒等が校舎の内外にいる可能性が高く、かつ、異なった学年の生徒等が混在し、教科等の学習中の場合に比べて指示や所在の把握が難しい時間帯であることを踏まえて、休憩時間中の場合に準じた対応が必要である。

② 学校外の諸活動時

(ア) 遠足、社会見学、職場体験等の活動中

在校時の場合と比べて、地理や建物の構造等に不案内である可能性が高く、海岸地域での津波、山間部での崖崩れなど学校内とは異なった危険に遭遇する可能性がある。電車・バス等で移動中に被災する可能性もあること等を踏まえた対応を行うものとする。

(イ) 修学旅行、野外活動、自然体験学習等により宿舎に滞在している場合

修学旅行等により宿舎に滞在している場合においては、在校時の場合と比べて、夜間の睡眠中あるいは停電時には、建物の構造に不慣れなことから特に混乱が生じやすいこと、火気使用中の場合は、災害発生の恐れがあること等を踏まえた対応を行うものとする。

③ 登下校時

登下校時には、指導者が不在のため、生徒等がどうしてよいか迷ったり、危険な行動に走る恐れが多分に予想される。このため日頃から、家庭及び学校においては、登下校時に大地震が発生した場合に学校へ避難するか、家に戻るかなどはつきり決めておいたり、通学路で危険の多い場所、安全な場所をよく確認しておく必要がある。また、電車・バス等による遠距離通学者はいないものの、ほとんどの生徒が自転車通学であるため、道路等の破損や崩壊に対する災害について事前に想定される事態・対処等を説明し指導しておく必要がある。

学校においては、登下校中の生徒等のうち、自宅へ戻らず学校に避難登校してくる生徒等や学校に居残っている生徒等を保護するものとする。生徒には兄弟の小学生児童もいることから、小学校への情報伝達の手段を事前に検討し、この事態にも応じられるようにする。

④ 夜間・休日等

被害の状況等によっては、学校が生徒等の安否を速やかに確認するため、学級担任が

各保護者に連絡するとともに、学校長等の管理職に状況を報告するものとする。

⑤ 保護者との連絡及び保護者への生徒等の引渡し

災害発生後、生徒等を保護者に引き渡すことが適切であると判断される場合には、生徒等の安全を確認した後、あらかじめ定めた方法で速やかに保護者と連絡をとる。

(この場合、昼間自宅にいない保護者との連絡方法についても考慮する必要がある)

- ・ 保護者への連絡とともに、教育委員会又は町等の災害対策本部へ生徒等の安全確認及び引渡しの実施について連絡する。
- ・ 生徒等の引渡しを行う場合、保護者との連絡が取れないなどの理由で、引渡しができない生徒等については、学校において保護するものとする。
- ・ あらかじめ作成しておく生徒等の引渡しカードをもとに、人員を確認する。
- ・ 保護者に引き渡す場合は、カードに引渡しを受けた保護者及び教職員が確認の署名を行う。
- ・ 引渡しができない生徒等を確認し、校内で保護する。なお、このような場合に備え、生徒等の個人情報について、プライバシー保護に配慮しつつ、あらかじめ整理しておくものとする。

⑥ 学校の施設・設備の被災状況の点検

二次災害の発生を防止し、また、早急に学校教育活動を再開するため、施設・設備の被災状況を点検するとともに、各市町村が実施する応急危険度判定を早急に受けることが必要である。危険箇所については、立入禁止の張り紙やロープを張る等の措置を講じる。

(3) 生徒等の安全確保の方策〔場所による対応〕

災害が発生した際に、学校施設等において予想される危険及び生徒等の安全を確保するために、教職員がとるべき行動については次の表に掲げるとおりである。

	予想される危険	教職員の指示と行動の例
普通教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 窓ガラスの飛散</li> <li>○ 天井板、壁の落下</li> <li>○ 戸棚・本棚等が倒壊、台上のテレビ落下</li> <li>○ 机上の花壇や棚に置いているものが落下</li> <li>○ 蛍光灯など天井に備え付けてあるものが落下</li> <li>○ 教室の床の損壊</li> <li>○ 生徒等が地震に対する恐怖心から心理的動揺をきたし、自己中心的な行動をして混乱を起こす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 落下物等から身を守るため、机の下へ待避することを指示する</li> <li>○ 生徒等の安全を確認するとともに、生徒等の動揺・不安の解消に努める</li> <li>○ 負傷した生徒等がいる場合には、速やかに応急処置を施す。また、窓ガラスの飛散等教室内の状況確認を行う。</li> <li>○ 近隣の教室の教職員との連携を図りながら、避難経路の安全確認、危険物の除去、管理職等との連絡を行う。</li> <li>○ ストープ等の火気使用中の場合は、生徒等をストープから離し、消火する。</li> <li>○ 災害の状況を踏まえつつ、避難のための集団を編成し、校庭等の避難場所へ誘導する。</li> </ul>
特別教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ &lt;理科室&gt;薬品棚の倒壊、実験中の薬品やガスバーナー等の転倒による発火。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 落下物等から身を守るため、机の下へ待避することを指示する。なお、教室によっては、机の下以外の場所に待避させ</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ &lt;家庭科室&gt;調理実習用具棚、冷蔵庫の倒壊やガス管の破壊、ガスコンロからの引火。アイロンによる火傷。</li> <li>○ &lt;美術室&gt;戸棚類や彫刻物、立掛物等の倒壊や、壁面の絵画の落下。彫刻刀などによるけが。</li> <li>○ &lt;音楽室&gt;ステレオやスタンドピアノの倒壊。</li> <li>○ &lt;図書室&gt;書棚の倒壊や本の落下。</li> <li>○ &lt;技術室&gt;収納戸棚や木材等の倒壊。各工具によるけが。</li> <li>○ &lt;コンピュータ室&gt;・ディスプレイ等の倒壊。</li> <li>○ &lt;保健室&gt;棚、立掛物、器物の倒壊。</li> </ul>	<p>る等の配慮が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒等の安全を確保するとともに、生徒等の動揺・不安の解消に努める。負傷した生徒等がいる場合には、速やかに応急処置を施す。特に、理科室における薬品庫の倒壊、家庭科室における火気取扱い等の状況に配慮しつつ、教室内の安全確認を行う。</li> <li>○ ストープ等、火気使用中の場合は、生徒等をストープから離し、消火する。</li> <li>○ 災害の状況を踏まえつつ、避難のための集団を編成し、校庭等の避難場所に誘導する。</li> <li>○ 有害ガスが発生する恐れがある場合は、ハンカチを鼻や口に当てさせるなど、適切な対応をさせる。</li> </ul>
体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 窓ガラス、天井板、壁などの落下、床面のひび割れ等の破損</li> <li>○ 蛍光灯や器具など天井に据え付けてあるものの落下</li> <li>○ 各種器具、用具や保管棚の倒壊</li> <li>○ ステージ照明の落下</li> <li>○ 出入口扉の破損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 窓や壁際から速やかに離れて、体育館中央部に集合し、身を低くするように大きな声で明確に指示する(ただし、状況によっては中央部に集合しない方が安全である場合もあることに留意)。</li> <li>○ 生徒等の安全を確認するとともに、生徒等の動揺・不安の解消に努める。負傷した生徒等がいる場合には、速やかに応急処置を施す。照明器具等の落下状況に配慮しつつ、周囲の安全確認を行う。</li> <li>○ 他の教職員との連携を図りながら、避難経路の安全確認、危険物の除去、管理職等との連絡を行う。</li> <li>○ 災害の状況を踏まえつつ、避難のための集団を編成し、校庭等の避難場所へ誘導する。</li> <li>○ 本校の体育館・出入口扉は鉄製であるため、地震による歪みで開閉不能にならないよう、地震と同時に安全確認しながら出入口扉を開く。</li> </ul>
昇降口、廊下、階段等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 昇降口の下駄箱の倒壊</li> <li>○ 防火扉の閉鎖</li> <li>○ 階段の破損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 下駄箱や入口のガラスから速やかに離れて、身を低くするよう特に大きな声で明確に指示する。</li> <li>○ 揺れと同時に防火扉が閉まることから、速やかに離れるよう指示する。また、避難経路が遮断される場合には、別の安全な経路を確認し、誘導する。</li> <li>○ 階段が破損し、上階からの避難経路が遮断された場合には、生徒等を安全な場所に待機させ、救助を待つ。</li> </ul>

校庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育器具等の転倒</li> <li>○ 地割れ、がけ崩れ等の災害</li> <li>○ 校舎付近での窓ガラス等の飛散・落下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建物や体育施設・器具、崖(東側、南側)付近から速やかに離れて、校庭中央部に集合するように大きな声で明確に指示する。</li> <li>○ 生徒等の安全を確認するとともに、生徒等の動揺・不安の解消に努める。負傷した生徒等がいる場合には、速やかに応急処置を施す。また、周囲の安全確認を行う。</li> <li>○ 他の教職員との連携を図りながら、地割れ、がけ崩れ等の有無を確認し、危険物の除去や管理職・対策本部との連絡等を行う。</li> <li>○ 避難場所である校庭から、第二次避難場所・体育館へ避難する場合は、避難経路や体育館の状況を確認後、指示を受けてから体育館に誘導・避難する。</li> </ul>
----	---	--



6 平成21年度・本校の防災教育の概要【年度当初の計画】

次の表に示す実施概要により防災教育を計画するとともに、防災教育及び農業体験による生産・加工において、学校教育活動に協力・支援いただく組織「改援隊」の行事等も合わせて、これらの計画を示す。なお、これらの実践については、本校の教育課程に位置づけ、主に総合的学習の時間において実施する。

月日	実施	目的・目標	備考
3月14日	講演 「中学生にできる地域防災について」	①震災の実態と状況の理解 ②防災・救援活動等の実践内容の把握 ③中学生が地域防災の担い手であることを認識や意欲付けとその向上 【講師：仙南保健福祉事務所副所長 本間照雄氏】	卒業生も参加
4月18日 午前4校時 (午後:PTA総会)	学校教育支援組織「改援隊」設立総会	①隊員の任命 ②改援隊の学校支援の概要説明 ③生徒代表による協力支援の御礼	全校生徒とPTA代表等が参加
5月1日 3校時	大震災ビデオの視聴と説明 (事前学習)	①巨大地震の災害状況を認識 ②避難所生活の状況・実態を認知 ③被災者の救助・応急処置等の対応 ④防災訓練の重要性と意義の理解 ⑤その他	担当教師によるビデオ視聴と講話
5月8日	本校水田の田植え作業		
5月19日	生徒による防災訓練の実施・活動内容の検討と係分担	①実施・活動内容(避難所の開設・運営、炊き出し・配給、災害状況の情報収集・救助支援活動)ごとの検討 ②内容ごとの係分担 ③各部ごとに実施・活動内容と計画の決定	各担当教師が指導、隊員は参観するが助言提供も場合によっては可能
5月20日 6校時	改援隊と生徒との防災訓練の検討・協議	①訓練当日の全体・各部の活動時程の説明 ②各部代表生徒が隊員に内容・計画を説明 ③各部担当の隊員からの質疑 [担当の隊員・教師：生徒を指導・支援する立場]	①については、担当教師が行う
5月22日	地域防災訓練の実施、シンポジウム	<目的・目標と実施概要など詳細については別紙> シンポジウム：講師 兵庫教育大学・名誉教授 徳山 明氏	対策本部は、録画等の記録も行う
6月中に	地域防災訓練のまとめ発表	①各部担当の生徒による防災訓練のまとめを発表(実施内容、成果・課題、次年度に向けた改善など) ②改援隊からの意見・感想コメント等 ③地域防災スローガンの宣言	生徒、改援隊員や地域住民、保護者が参加対象
7月以降	防災マップ作成(生産・加工作業)	<7月以降、両者を並行して実践>	
11月	丸森町・模擬議会	地域防災や産業振興など町の活性化や生活環境整備等を提案し審議する。	

1月	神戸震災メモリアル報告会	震災を受け、15年の神戸で開催されるメモリアルに教員を派遣し、その報告を全校生徒と保護者・改援隊の方々に行う。
----	--------------	---

〔避難所の食材備蓄・作業〕

- 8月・梅干し・・・シソを種から栽培し、生徒が収穫する梅を梅干しに加工
- 10月・米の収穫・・・5月に手植えし、手作業で除草して育て、稲刈り・脱穀
- 11月・味噌・・・7月に畑に種まきし、畑の除草して大豆を10月に収穫して、味噌に加工
- たくわん・・・7月に大根の種まきをして11月に収穫し、大根をたくわんに加工

